

SHINTOかわら**S**

# 工事店様用設計施工マニュアル

- 商品改良のため予告なしに仕様変更する場合があります。
- 本書に収録したものの無断複製はかたくお断りします。

**目次**

安全上のご注意	1
安全対策	2-4
製品仕様	5-6
使用部材・工具類	7-9
施工準備 ●下葺き材の施工	10-12
標準施工方法	
●納まり図	13-16
●本体を施工する前に取付ける部材	17-18
●かわらの割付け	19
●アンダーマット	20
●本体かわら	21-22
●ケラバ	23-24
●棟	25-26
●降棟	27
●三ツ叉	28
●妻壁	29
●桁壁	30
●谷	31-32
●すがり部	33-34
●軒先・壁交差部	35-36
●出隅	37
●換気棟	38
●雪止金具	39
材料積算	40-44

■施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。

●表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

<b>警告</b>	この表示の欄は「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
<b>注意</b>	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

●施工終了後、各部の点検を行い、異常のないことを確かめてください。

## 警告

1.屋根施工に関しては、安全確保のため、本資料の「安全対策」を最低限遵守してください。 また、現場の作業環境に合わせた安全対策を徹底してください。
2.屋根からの墜落を防止する為に足場を組み立てる等の対策を行ってください。
3.作業床を設置する事が困難なときは、防護ネットを張り安全带を使用する等墜落の危険防止を行ってください。 →設置を怠ると落下してケガをするおそれがあります。
4.屋根面に本体かわら等を置くときは、落下しないようにしてください。 かわらの積み上げ、端材処理等充分注意し作業してください。 →器物が落下すると、ケガ及び器物破損のおそれがあります。
5.雨などで屋根面が濡れている場合は施工しないでください。
6.葺き上がった屋根面には、物を置かないようにしてください。 →滑り落ちるおそれがあります。 →製品の機能を損なうおそれがあります。

## 注意

●ネジ込みの振動でかわらが滑り落ちるおそれがありますので、充分注意してください。 ●かわらの取扱時は必ず手袋を着用してください。 →かわらのバリなどによりケガをするおそれがあります。
●作業中、足場から屋根面へ飛び下りたり、物を落としたりしないでください。 →凹み、破損を生じ、雨漏りなどの原因となります。
●葺き上がったかわらの上を歩くときは山部を避け谷部を踏んでください。 →山部を踏むと、かわらが凹むおそれがあります。
●切断は切り粉の出ない工具で行ってください。 →切り粉が表面に付着するともらいサビが発生するおそれがあります。

## 労働災害を未然に防ぐために

施工にあたり、作業の安全確保のため以下の作業方法を遵守してください。

建築現場の災害は墜落、転落が全体の1/3を占めます。本章は墜落転落防止を中心に作業安全のポイントを記します。

そのほかに法規（労働安全衛生法等）がありますので工事は法規を遵守して行ってください。

### 1.保護帽の着用

- 工事中は必ず墜落時保護用ヘルメットを着用してください。
- ヘルメットの内側に労働省の型式検定合格をしめす[労検ラベル]があります。  
墜落時保護用合格を確認してください。

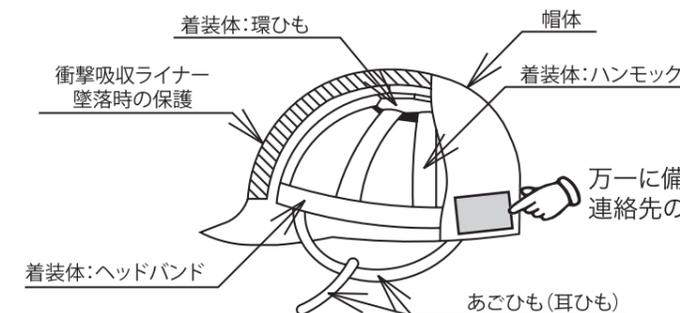
#### 1)ヘルメットの着用方法

- ①ヘッドバンドは頭の大きさに合わせて調節して確実に固定してください。
- ②まっすぐに深く被ってください。
- ③あごひもは緩みがないようにしっかり締めてください。

#### 2)使用上の注意

- ①耐用期間のめやす
 

ABS、ポリカーボネート樹脂	3年以内
FRP樹脂	5年以内
- ②大きな衝撃を受けたものは外観に異常が認められなくても廃棄してください。性能が落ちています。
- ③部品に異常があるときは速やかに交換してください。



万一に備えて保護帽には作業者の氏名・血液型・連絡先の住所と電話番号を明示する。

氏名	新東 太郎
血液型	△ 型
連絡先	〇〇市□□町〇丁目〇-〇 ◇◇工務店 電話000-000-0000

## 2.はしご掛け時の注意

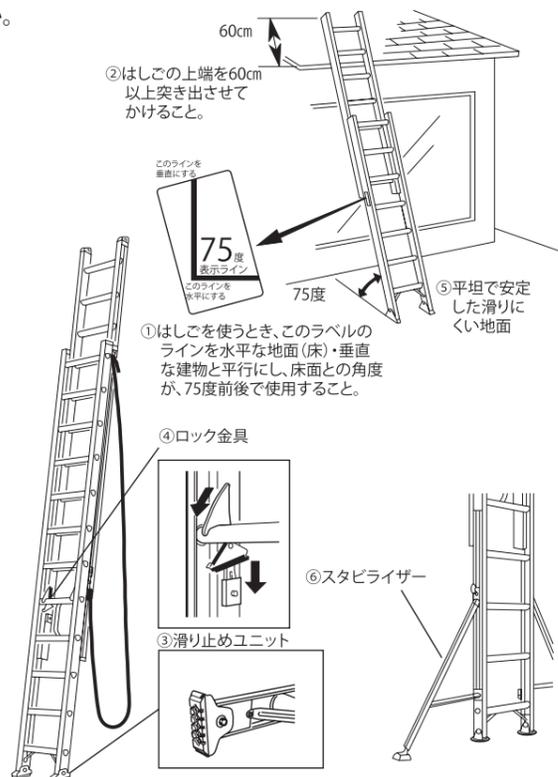
はしごは正しく使われていないと転倒や転落の危険があります。事故が起こらないよう正しい使い方を守ってください。

1) 正しい掛け方のポイントは次の通りです。

- ① 床面との角度を75度前後にします。
- ② はしごの上端を60cm以上突き出させてかけること。
- ③ 下部に滑り止めユニットをつけます。
- ④ 2連はしごはロックを正しく掛け、掛かりを確認します。
- ⑤ 平坦で安定した滑りにくい地面を選んで掛けます。
- ⑥ スタビライザーの使用をおすすめします。

2) 使用上の注意

- ① 75度表示ラベル、危険ラベル、使用上の注意ラベルの貼ってあるものを使用してください。
- ② 2連式で作動が悪くなったもの、ロックの作動の悪いものは廃棄してください。
- ③ 2連はしごの伸縮は取っ手を持ってください。踏ざんと危険です。
- ④ ゆする、押す、踏み込むなどしてはしごの安定を確認してください。
- ⑤ 同時に2人以上乗らないでください。
- ⑥ はしごの昇降は片手、背中向きは危険です。
- ⑦ 詳しい取り扱い方は、はしご付属の取扱説明書をご覧ください。



## 3.安全帯の使用

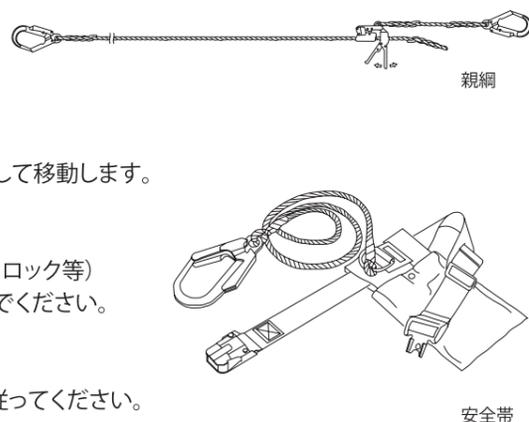
高所作業において、安全帯の使用は墜落転落防止の基本です。市販の部材をその現場に合わせて工夫して使用する習慣を身につけてください。

1) 基本使用方法

- ① 親綱を貼ります。両端固定が基本です。
- ② 安全帯を腰につけます。
- ③ 安全帯のロープを親綱に固定します。
- ④ 親綱の固定か、ロープのスライドキャッチを調整して移動します。

2) 使用上の注意

- ① 親綱の固定は建物、周囲の突起物を利用、又は専用の固定金具を活用してください。(セーフティロック等)
- ② 移動の為の調整は片手で作業できるものを選んでください。
- ③ 親綱、ロープ共、長いたるみは効果がありません。
- ④ 落下距離1.5mを目安に調節してください。
- ⑤ 器機には取扱説明書がついています。説明書に従ってください。



## 施工時の注意事項

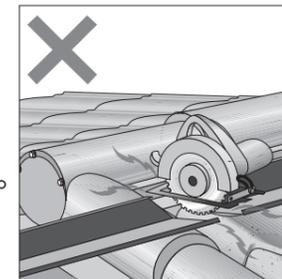
### ■施工時の注意

- 雨天時、および屋根面が濡れている場合は施工しないでください。

#### 湿潤状態での施工禁止

施工中または施工直後、濡れたままの状態で行くと本体表面が剥がれたりする場合があります。よって施工中に濡れた場合には、十分に表面の湿気がないことを確認の上、施工を再開して下さい。

- 役物(ケラバ・棟等)の上には乗らないでください。
- 切断は、切り粉の出ない工具で行ってください。(切り粉が付着するともらいサビが発生する恐れがあります。)
- 屋根面を歩行する場合は本体かわらの谷部を歩いてください。



### ①運搬

- 車両などで運搬する時は平積みにしてください。
- 積み降ろしの時に傷つけないように注意してください。
- 吊上げる時は当て板などを用いて、ロープ掛けによる損傷を防いでください。

### ②現場での保管

- 屋外保管の場合は、雨水などで濡れたり、汚れたりしないように養生してください。
- 屋根材は地面に直接置かないように保管してください。
- 屋根材本体及び付属品の荷置きは集中荷置きを避けてください。(変形する恐れがあります)
- 荷崩れを起こさないように注意してください。

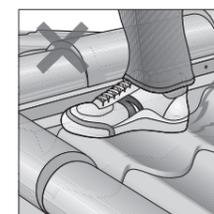
### ③残材処理

- 残材は“廃棄物の処理及び清掃に関する法律”に基づき産業廃棄物として処理してください。
- 廃材の処分はマニフェストシステム(産業廃棄物管理票)に準拠して実施してください。

### ■施工後他の工事で屋根に上がる場合の注意

かわらS施工後、外壁等他の工事で屋根面を使用する場合、以下の事項に充分注意するよう指示してください。

- (1) 屋根面を歩行するときは、役物及び本体かわらの山部は踏まないようにしてください。
- (2) 塗装工事のときは屋根面を養生し、作業中は役物および本体かわらの山部は踏まないようにしてください。
- (3) はしごを掛ける場合は当て木を使ってください。



役物は踏まないように



塗装工事には養生シートを



- (4) 作業中、足場から屋根面へ飛びおいたり、物を落としたりすると凹み・破損を生じ雨漏りの原因となりますのでご注意ください。



屋根面に飛び降りない

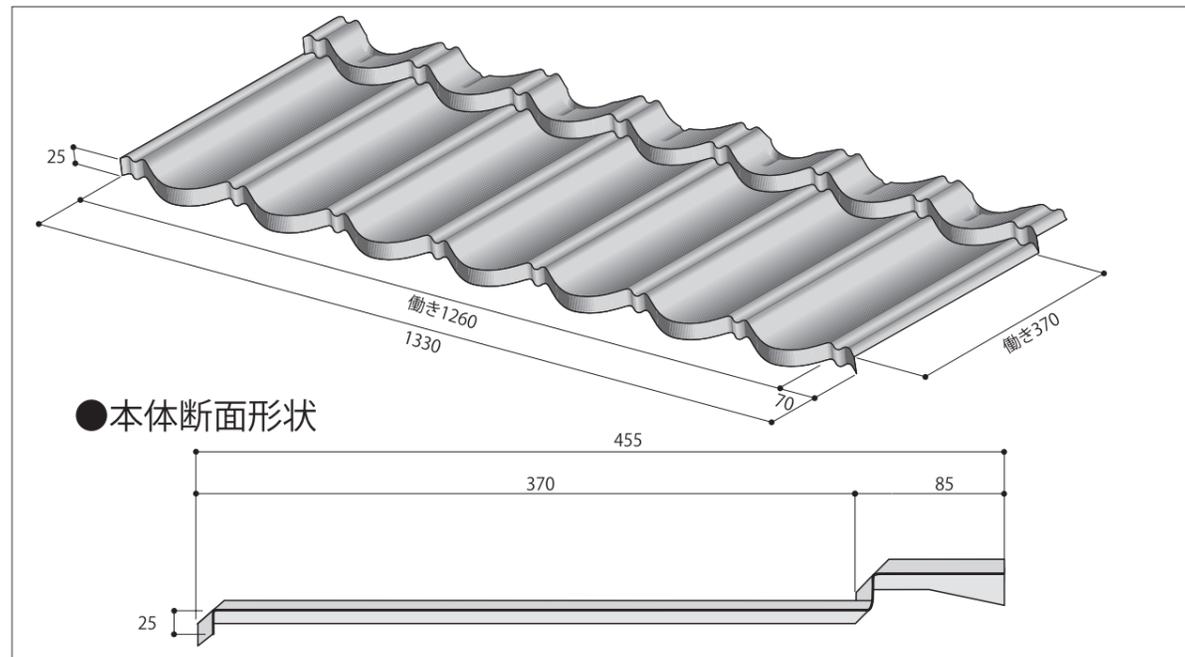
- (5) 作業中のゴミはきれいに清掃してください。軒樋の中のゴミの除去も願います。



屋根面の掃除を

- (6) 足場を組む場合は必ず養生板を敷いてください。

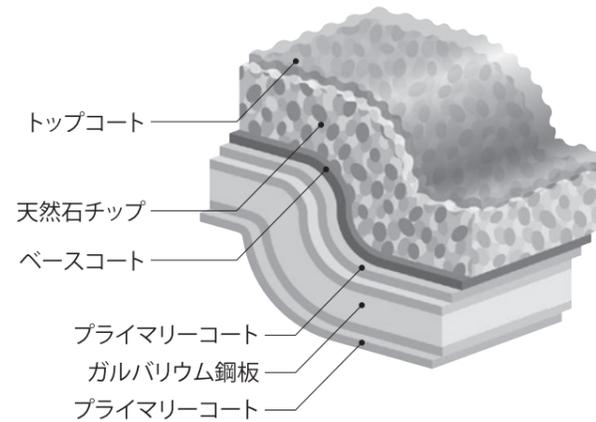
## ■ 本体形状



## ■ 断面イメージ

※表面の天然石は施工時に多少とれますが、性能などに問題はありません。

※ガルバリウム鋼板  
耐久性・耐食性に優れたアルミ・亜鉛合金メッキ鋼板です。



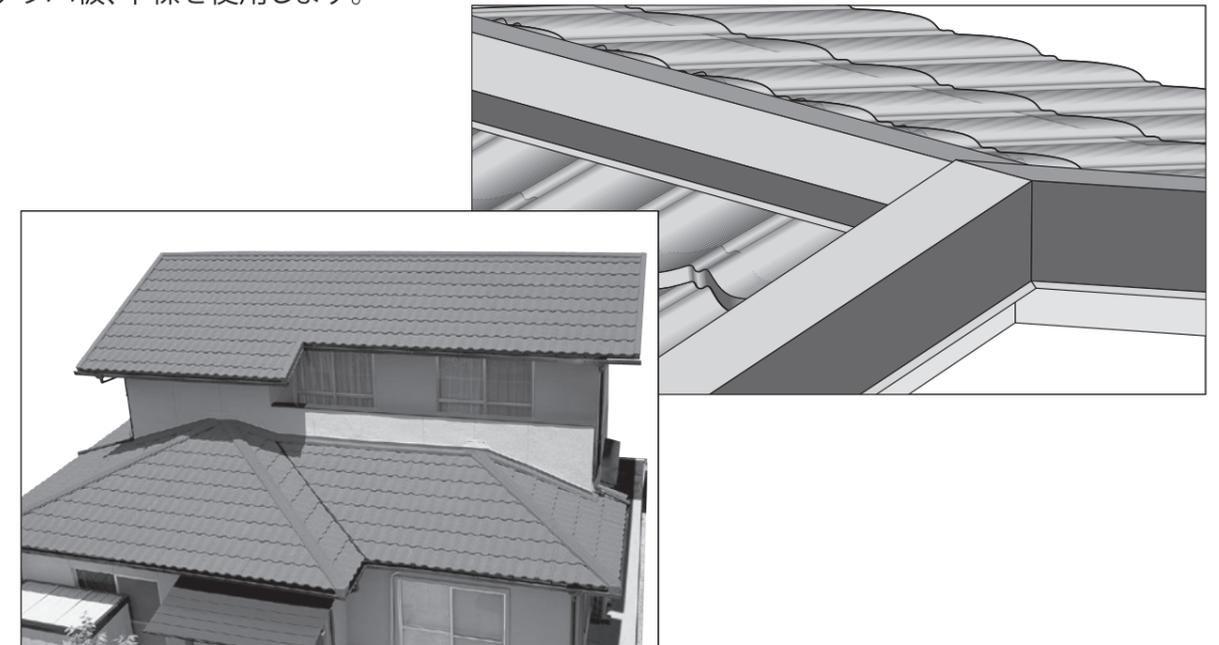
## ■ 標準仕様

表面仕上げ	天然石(ストーンチップ)
働き(長さ×幅)	1260mm×370mm
1枚当たりの重量	3.1kg
1㎡の本体枚数	2.1枚
1坪当たりの重量	22kg
鋼板厚み	0.39mm
施工最低勾配	2.5寸以上
不燃認定No.	NE-0049-1

## ■ ケラバ、棟には『平棟仕様』と『丸棟仕様』の2仕様があります。

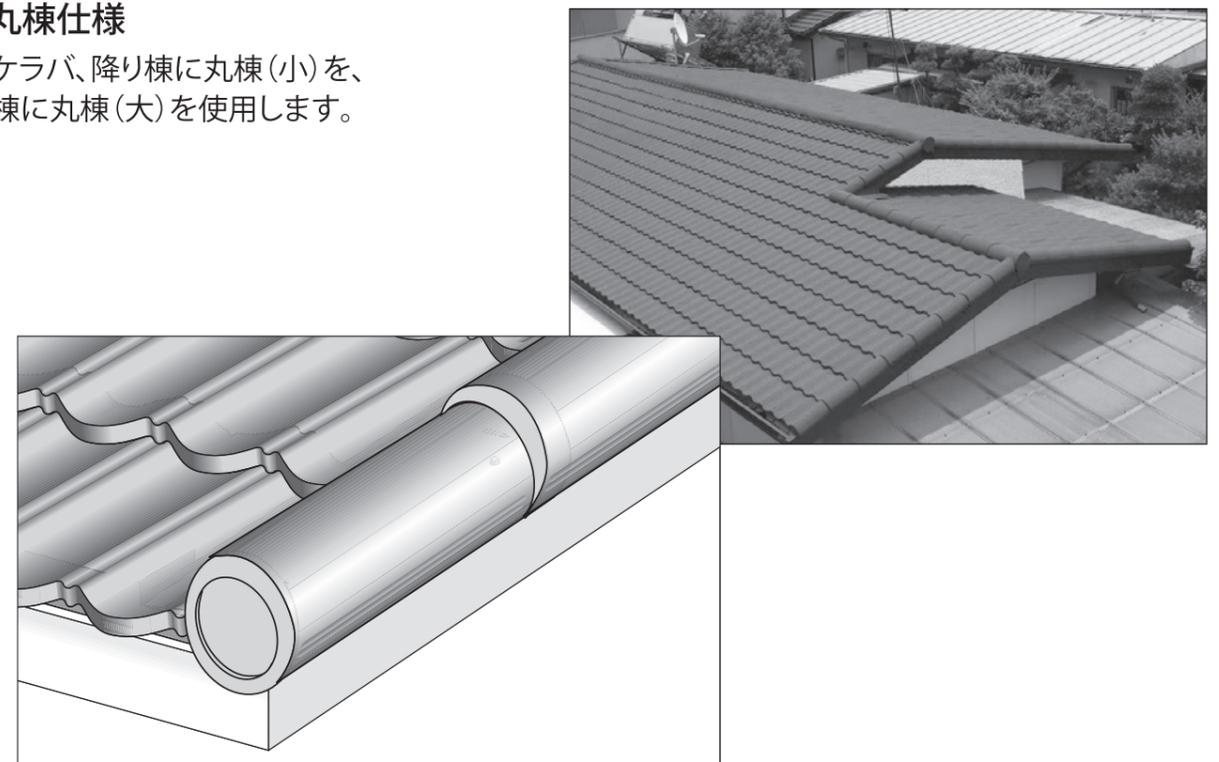
### ■ 平棟仕様

ケラバ板、平棟を使用します。



### ■ 丸棟仕様

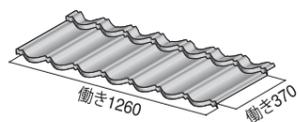
ケラバ、降り棟に丸棟(小)を、棟に丸棟(大)を使用します。



共通部材

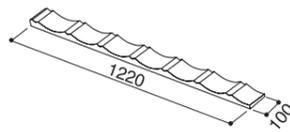
●S本体かわら

材質:天然石付ガルバリウム鋼板



●Sアンダーマット ※

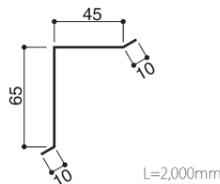
材質:ポリスチレン



※凹み防止材として使用を推奨しています。  
※最深積雪量が50cm以上の場合は必要となります。

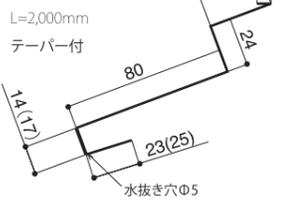
●軒先スターター

材質:天然石付ガルバリウム鋼板



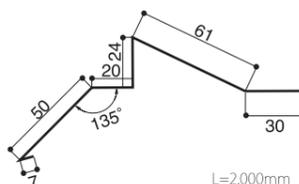
●S軒先カバー

材質:天然石付ガルバリウム鋼板



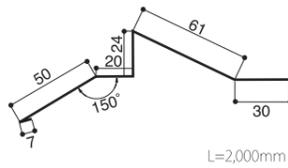
●S軒先水切り4.5寸

材質:塗装ガルバリウム鋼板



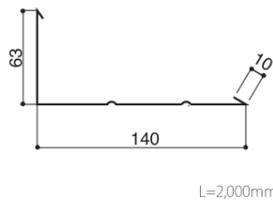
●S軒先水切り8寸

材質:塗装ガルバリウム鋼板



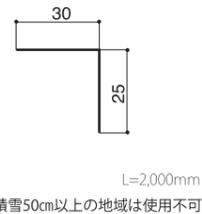
●Sケラバ捨板140

材質:塗装ガルバリウム鋼板



●S谷カバー

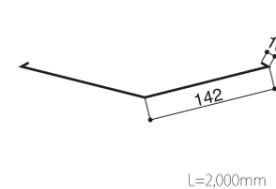
材質:天然石付ガルバリウム鋼板



※積雪50cm以上の地域は使用不可

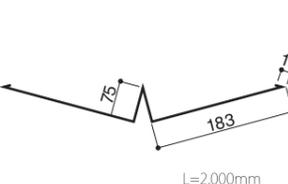
●谷樋

材質:塗装ガルバリウム鋼板



●SIIW谷樋

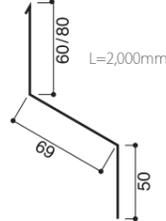
材質:塗装ガルバリウム鋼板



●雨押さえB

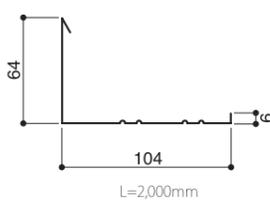
●雨押さえ80

材質:天然石付ガルバリウム鋼板



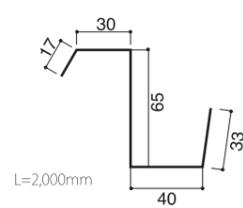
●S壁捨板

材質:塗装ガルバリウム鋼板



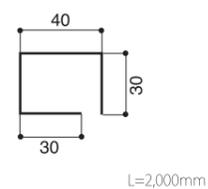
●S妻壁用スペーサー

材質:塗装ガルバリウム鋼板



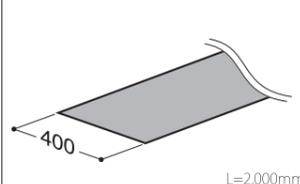
●金属笠木30×40

材質:ガルバリウム鋼板



●平板400×2000

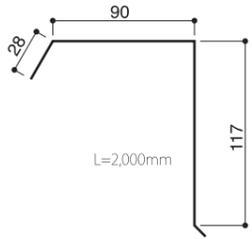
材質:天然石付ガルバリウム鋼板



平棟仕様部材

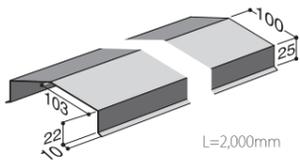
●Sケラバ板

材質:天然石付ガルバリウム鋼板



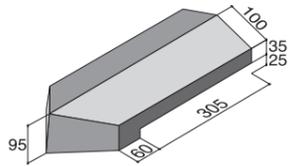
●S平棟

材質:天然石付ガルバリウム鋼板



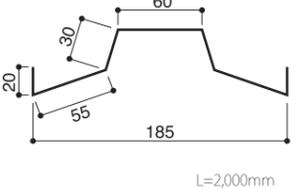
●S平棟降りコーナー

材質:天然石付ABS



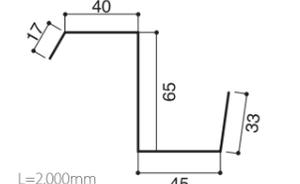
●S平棟用スペーサー

材質:塗装ガルバリウム鋼板



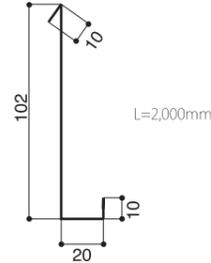
●Sケラバスペーサー45

材質:塗装ガルバリウム鋼板



●S平棟ケラバ樋

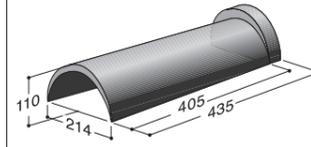
材質:塗装ガルバリウム鋼板



丸棟仕様部材

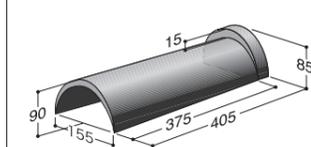
●丸棟(大)

材質:天然石付ガルバリウム鋼板



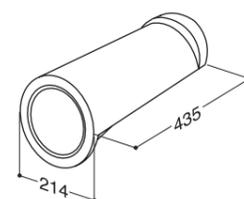
●丸棟(小)

材質:天然石付ガルバリウム鋼板



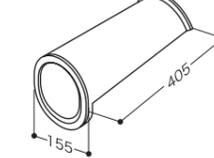
●丸棟鬼

材質:天然石付ABS



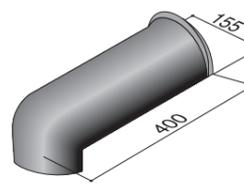
●棟巴

材質:天然石付ABS



●丸棟降りコーナー

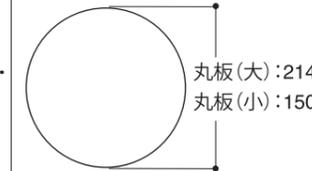
材質:天然石付ABS



●丸板(大)

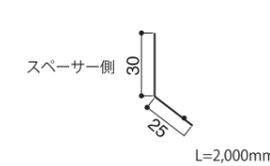
●丸板(小)

材質:天然石付ガルバリウム鋼板



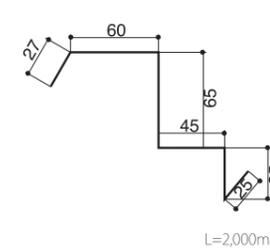
●降り棟カバー

材質:天然石付ガルバリウム鋼板



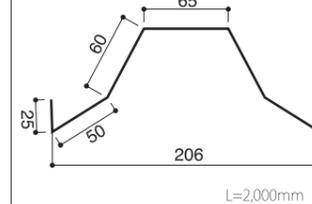
●S丸棟ケラバスペーサー45

材質:塗装ガルバリウム鋼板



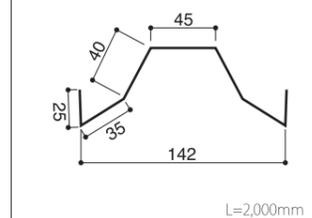
●S丸棟(大)用スペーサー

材質:塗装ガルバリウム鋼板



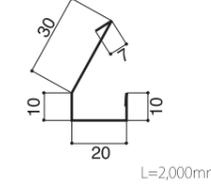
●S丸棟(小)用スペーサー

材質:塗装ガルバリウム鋼板



●丸棟ケラバ樋

材質:塗装ガルバリウム鋼板



面戸部材	固定部材	付属部材	工具
<p>●S面戸20×20×2000 材質:EPDM  L=2,000mm</p>	<p>●ステンレスビス25ミリ(約200本入) 材質:SUS410 L=25mm 用途:本体固定用、ケラバ・棟など役物固定用</p>	<p>●S雪止金具 材質:SUS410  80 273</p>	<p>●マグネットソケット 6.35  ※ビスの頭径はインチ仕様のため専用ソケットが必要</p>
<p>●S面戸30×30×2000 材質:EPDM  L=2,000mm</p>	<p>●ステンレスビス38ミリ(約200本入) 材質:SUS410 L=38mm 用途:本体固定用(平板スレート重ね葺きの場合) 雨押さえ固定用 6.35 </p>	<p>●タッチアップキット  アクリル樹脂 ストーンチップ</p>	<p>●S押切(小) </p>
<p>●S面戸30×40×2000 材質:EPDM  L=2,000mm</p>	<p>●専用ビスJP25ミリ(約500本入) 材質:亜鉛メッキ仕上げ L=25mm</p>	<p><b>現地調達部材</b></p> <p>●コースネジ 35~45mm</p>	<p>●Sベンダー </p>
	<p>●専用ビスJP38ミリ(約500本入) 材質:亜鉛メッキ仕上げ L=38mm</p>		
	<p>●専用ビスJP50ミリ(約500本入) 材質:亜鉛メッキ仕上げ L=50mm 6.35 </p>		
	<p>●軒先ネジ75 材質:SUS410 L=75mm </p>		

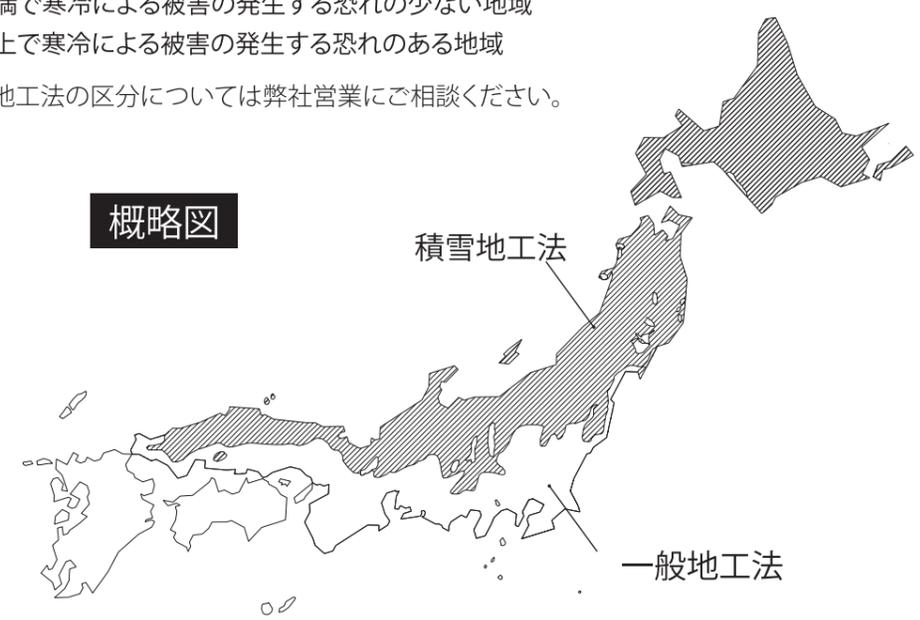
## 野地板の種類と建物高さ

〈新築・葺替え共通〉	高さ制限 2.4mまで	勾配制限 2.5寸以上
------------	-------------	-------------

- ①新築
- 野地板の種類
    - JAS構造用合板 特類2級(厚さ12mm以上)
    - 硬質木片セメント板(厚さ18mm以上)
- ②葺替え
- 既存屋根材の下地作り
    - ・既存の屋根材(粘土瓦・セメント瓦等)を撤去し、野地板の上に構造用合板を貼る。
    - ・瓦棒・平板スレート等で野地板のビス保持力がある場合、既存の屋根材の上に構造用合板を貼る。
    - ・平板スレート葺き屋根で、野地板のビス保持力がある場合、重ね葺きが可能。

## 使用可能地域

- ①かわらSは下図の一般地、及び積雪地で使用してください。
- 一般地・・・積雪50cm未満で寒冷による被害の発生する恐れのない地域
  - 積雪地・・・積雪50cm以上で寒冷による被害の発生する恐れのある地域
- ※一般地工法及び積雪地工法の区分については弊社営業にご相談ください。



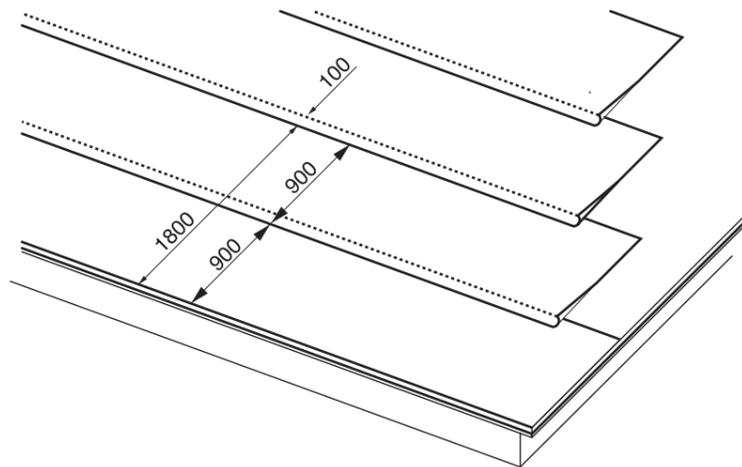
## 下葺き材の施工基準

工法	施工方法
一般地工法(最深積雪量50cm未満)	下地材またはアスファルトルーフィング940(同等以上)の1層葺き
積雪地工法(最深積雪量50cm以上)	下地材またはアスファルトルーフィング940(同等以上)の1層葺き ただし軒先約2mまでは二重葺き

## 下葺き材の施工

### ■一般地工法

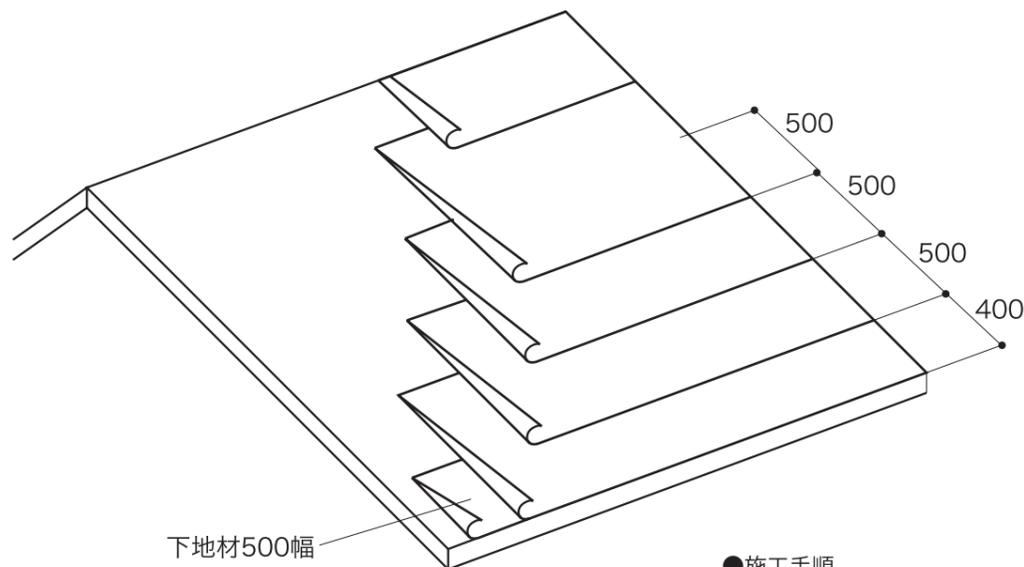
- 下地材、またはアスファルトルーフィング940(同等以上)を使用



- 施工手順  
重ね寸法
  - ・流れ方向: 100mm以上
  - ・桁行方向: 200mm以上
- 施工のポイント
  - ・野地へ仮止めする場合、重ね部で300mm程度の間隔でステーブル釘を打つ。
  - ・しわやたるみが入らないように、平坦に下地になじませて敷く。
  - ・万一、施工中に破損した場合は、その部分を新たに貼り替える等の適切な補修を行う。

### ■積雪地工法

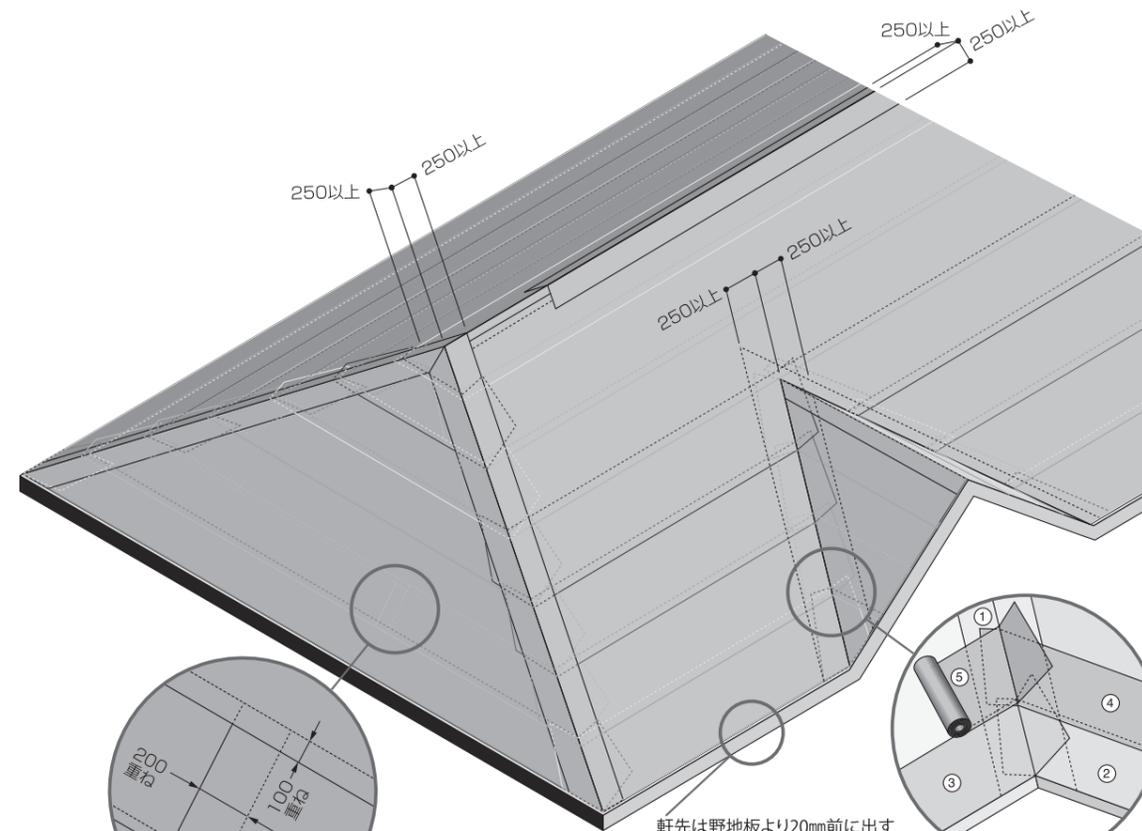
- 下地材、またはアスファルトルーフィング940(同等以上)を使用



- 施工手順
  - ① 軒先から約2m部分はルーフィングを2重に施工します。
  - ② それ以外は一般地と同様に施工します。

その他施工基準は「JASS12屋根工事標準仕様書」に準拠する。

## 下葺き材の施工

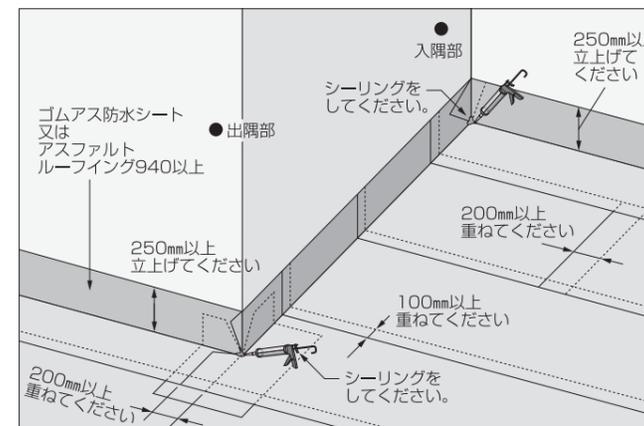


### ■重ね要領(寸法)

- 流れ方向 — 100mm以上
- 桁行方向 — 200mm以上
- 棟部 — 二重に葺く
- 下り棟部 — 多重に葺く
- 谷部 — 多重に葺く

谷部の下地材は図の①～⑤の順番で葺く

### ■出隅部・入隅部

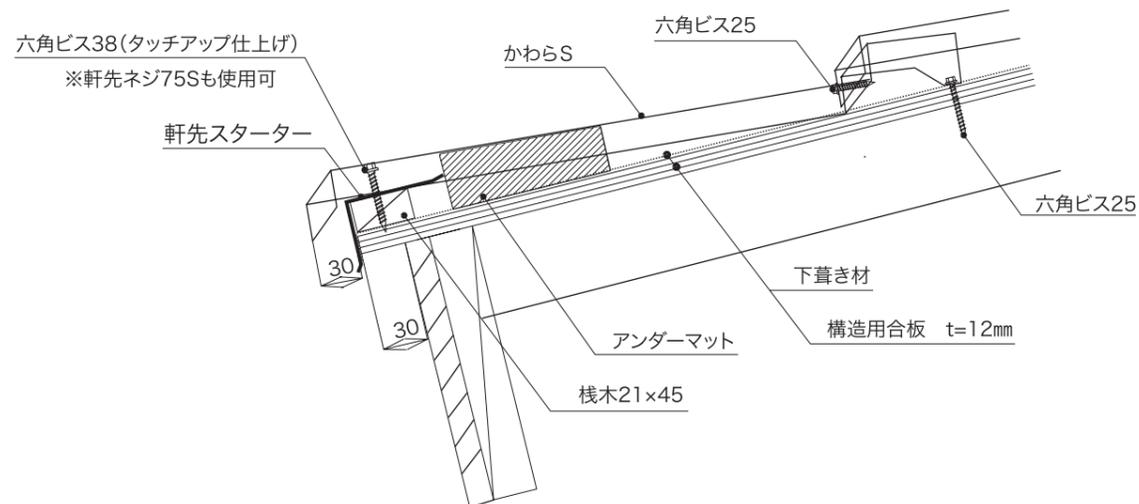


### ⚠ 注意

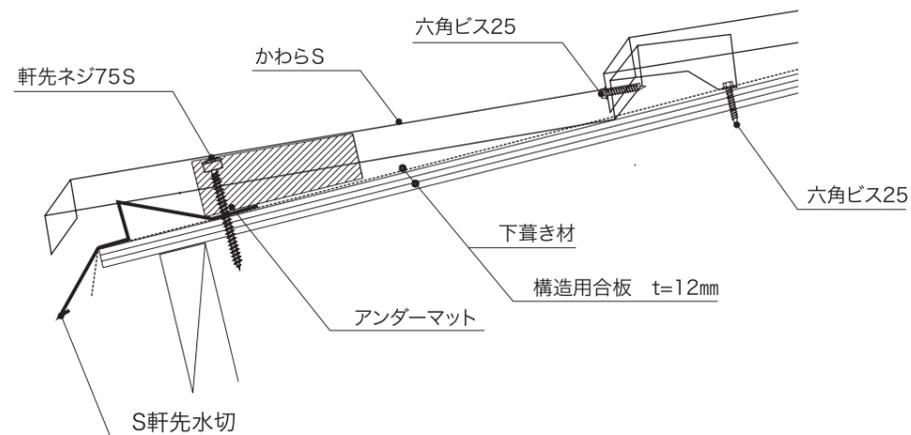
- ⊙ 下地が含湿している時や雨天時の下地葺きは行わないでください。

## 軒先部 納まり図

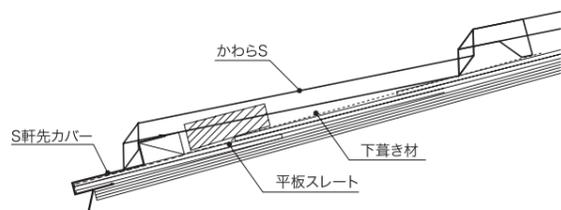
### ■軒先スターター仕様



### ■S軒先水切仕様

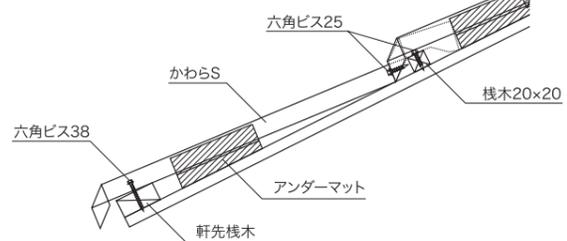


### ■S軒先カバー仕様



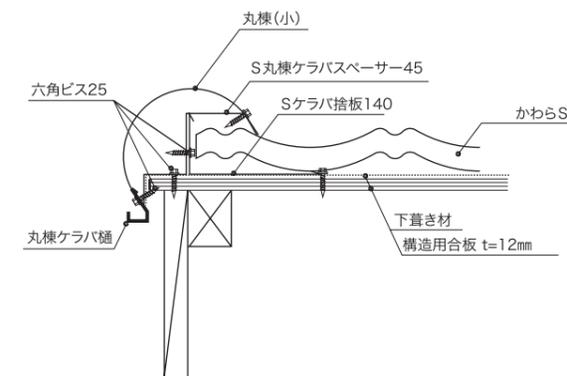
### ■下地部分補強

部分的に六角ビスが効かない場合は  
栈木20x20を使用してビス止め

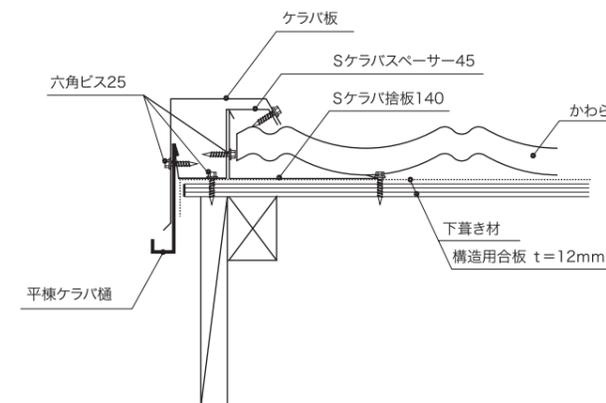


## ケラバ部 納まり図

### ■丸棟仕様

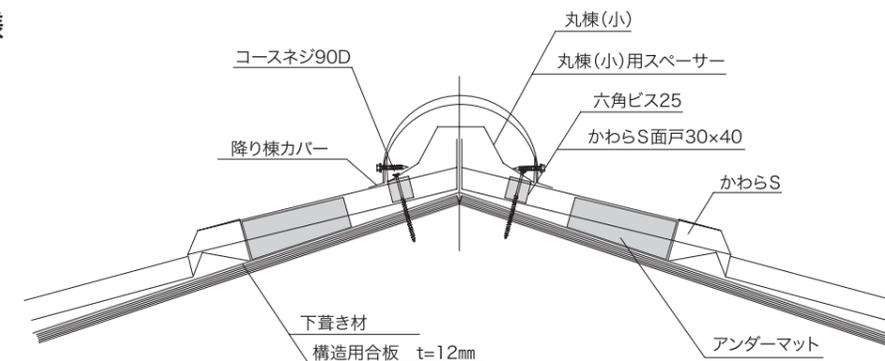


### ■平棟仕様

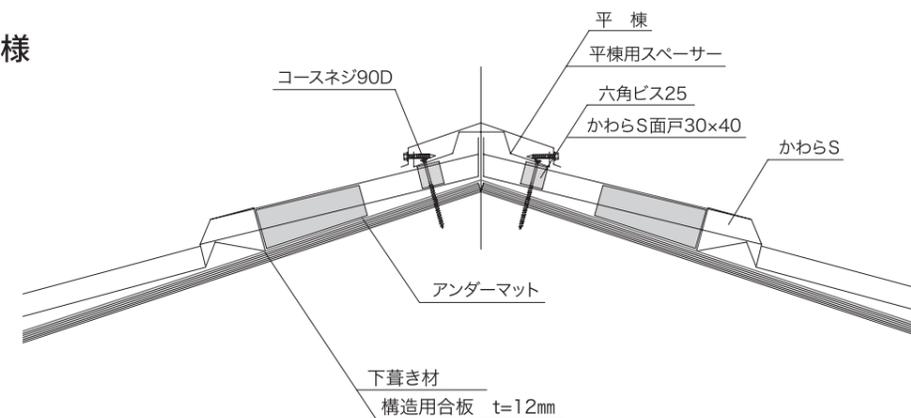


## 降り棟部 納まり図

### ■丸棟仕様

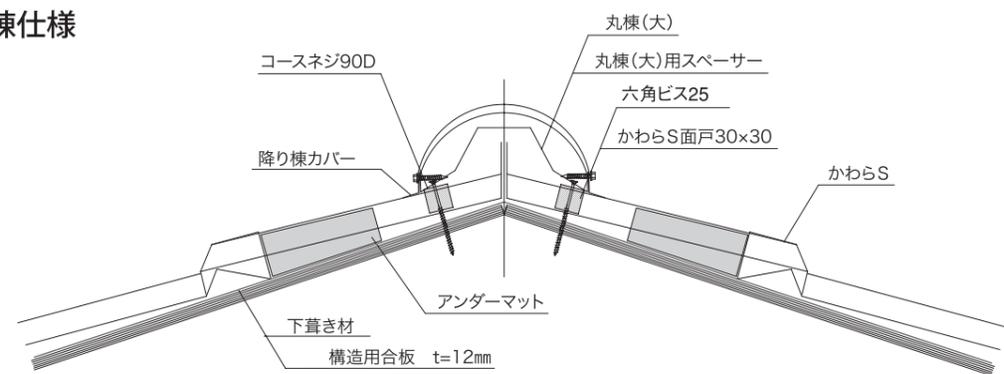


### ■平棟仕様

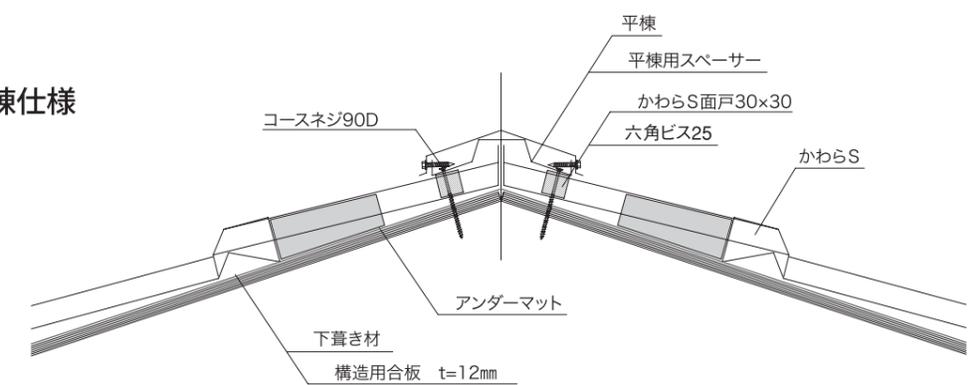


棟部 納まり図

■丸棟仕様

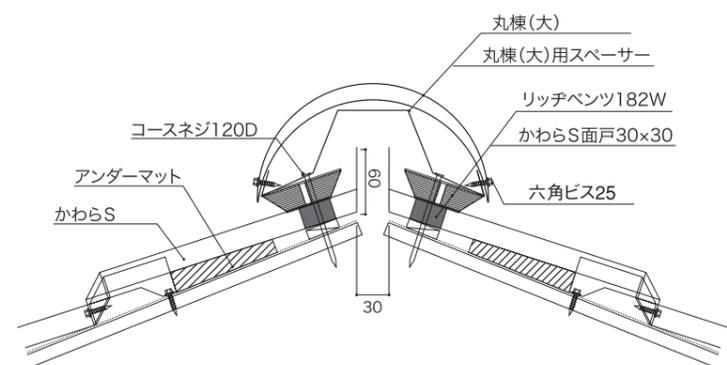


■平棟仕様

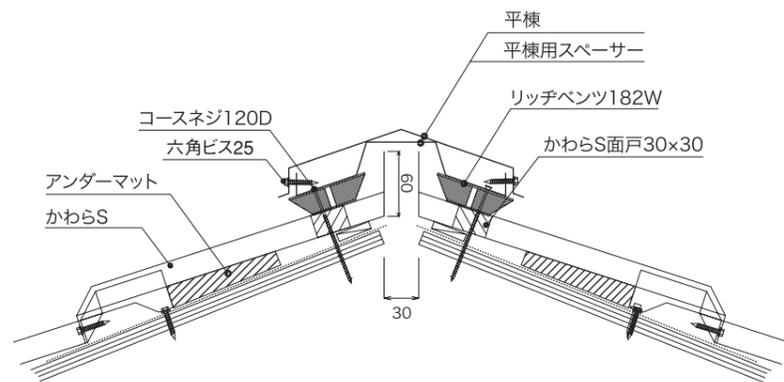


換気棟部 納まり図

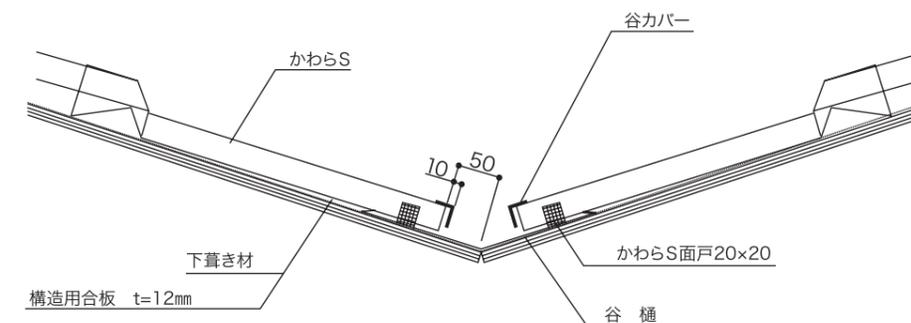
■丸棟仕様



■平棟仕様

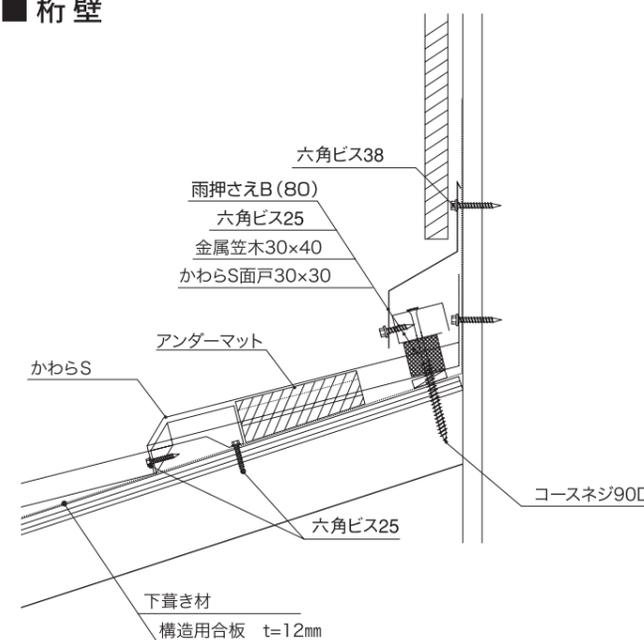


谷部 納まり図

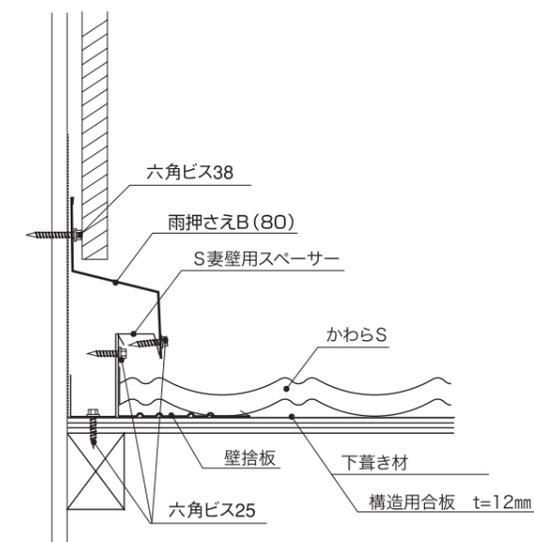


壁部 納まり図

■桁壁



■妻壁

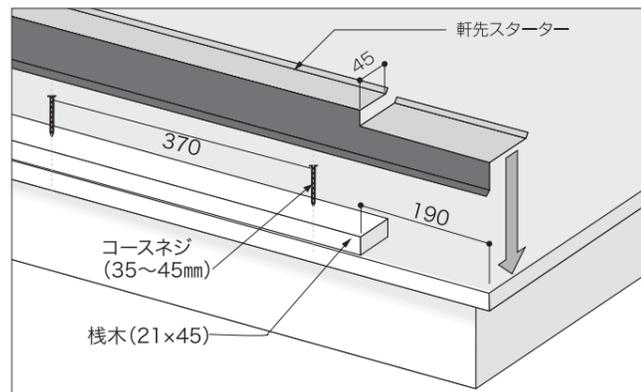


## 本体瓦を施工する前に取付ける部材

### ■軒先スターター仕様

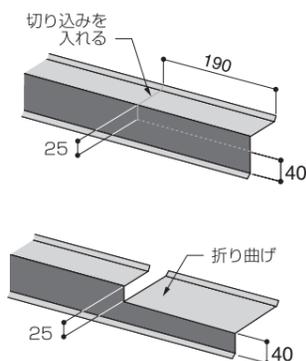
#### ■ 棧木の取付け

- 野地板先端に合せ棧木(21×45)をケラバ部から190mm離れた位置にコースネジ(35~45mm)で370mmピッチで取付けます。



#### ■ 軒先スターターの取付け

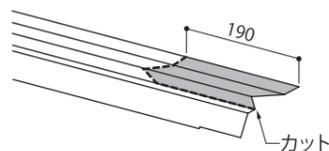
##### ● 軒先スターターの加工



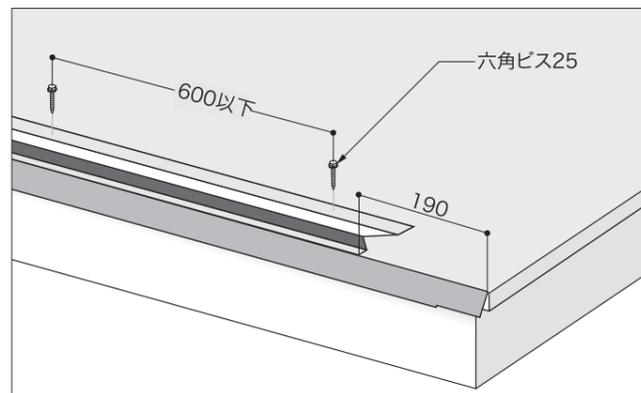
- 軒先スターターは65mmと45mmの面があり建物に合わせて使い分けてください。
- 軒先スターターは六角ビス25で600mmピッチ以下で固定します。
- 軒先スターターのジョイントは50mm以上重ねて取付けます。

### ■ S 軒先水切仕様

- ケラバ部はS軒先水切を加工して取付けます。



- S軒先水切は六角ビス25で600mmピッチ以下で固定します。
  - S軒先水切のジョイントは50mm重ねて取付けます。
- ※ S軒先水切は4.5寸用と8寸用があります。



## 本体瓦を施工する前に取付ける部材

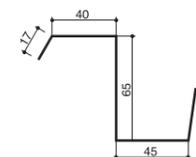
### ■ケラバ用スペーサーの取付け

- ケラバ側にケラバ用スペーサーを六角ビスで600mmピッチ以下で固定します。

※スペーサーは仕様により使い分けてください。

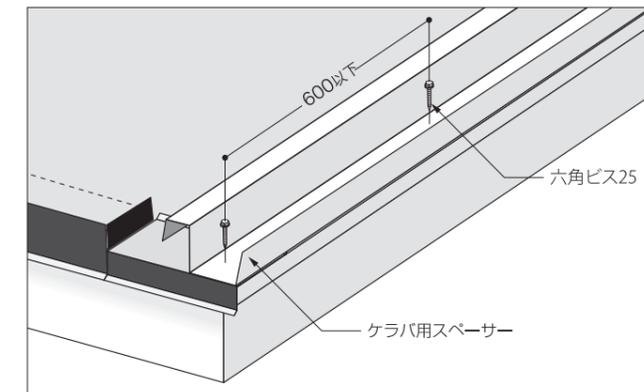
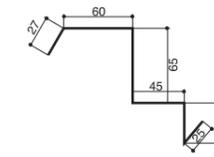
#### 平棟仕様

- Sケラバスペーサー45



#### 丸棟仕様

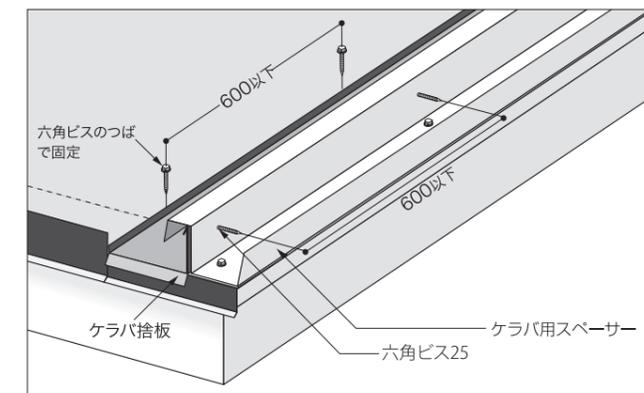
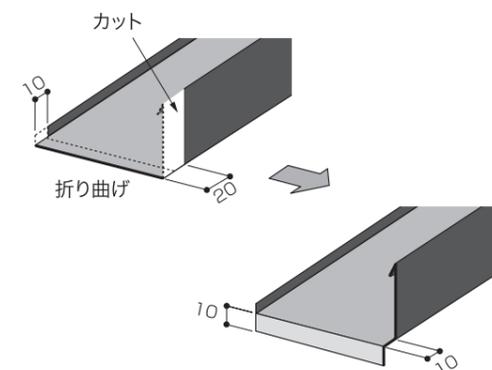
- S丸棟ケラバ用スペーサー45



### ■ケラバ捨板の取付け

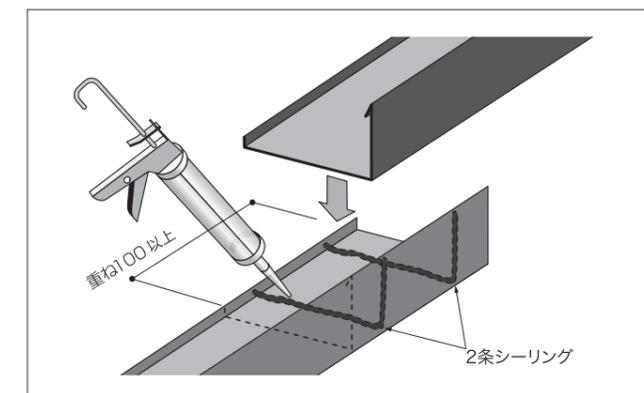
- ケラバ捨板を下図のように加工し、ケラバ用スペーサーに合わせてセットし、六角ビスのつばで600mmピッチ以下で固定します。

※野地板に止め付ける六角ビスは、ビスのつばをケラバ捨板の端にひっかけるように固定してください。



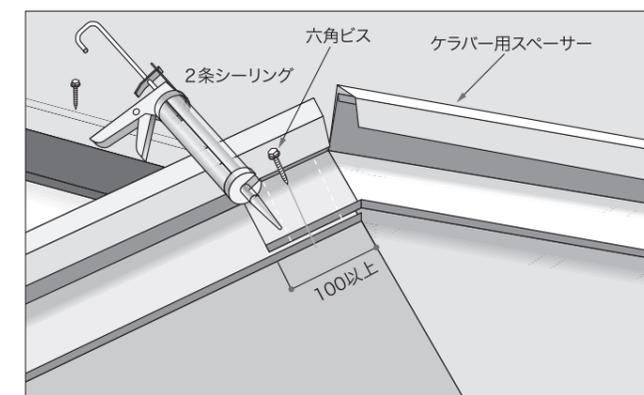
- ケラバ用スペーサーとケラバ捨板を六角ビス25で600mmピッチ以下で固定します。

- ケラバ捨板のジョイント部は100mm以上重ねます。重ね部は2条シーリングを行います。



### ■棟芯部のケラバ捨板の取付け

- ケラバ捨板は棟芯部に100mm以上重ねます。
- 重ね部は2条シーリングを行います。

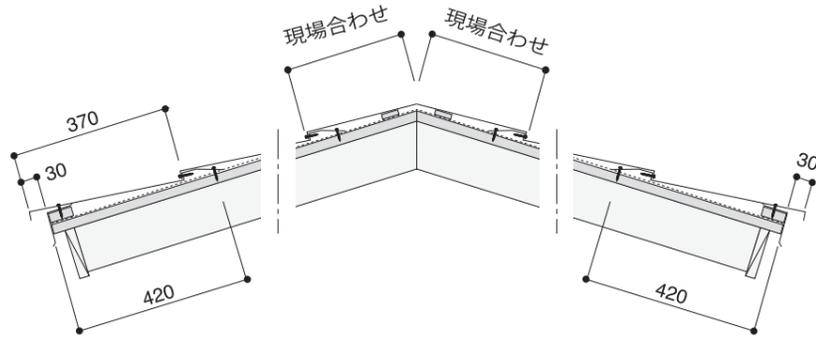


## かわらの割付け

### ■割付け

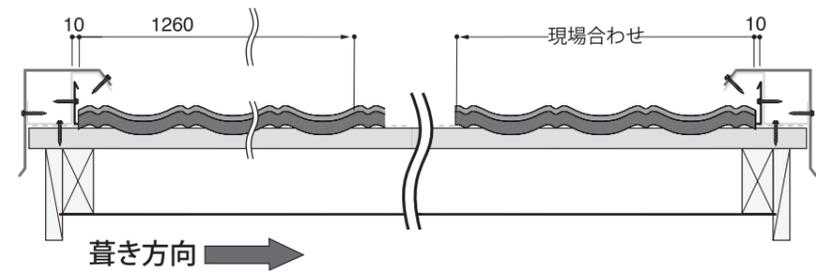
#### ①流れ方向

- 本体かわらの出寸法は雨樋との取り合いで決めます。

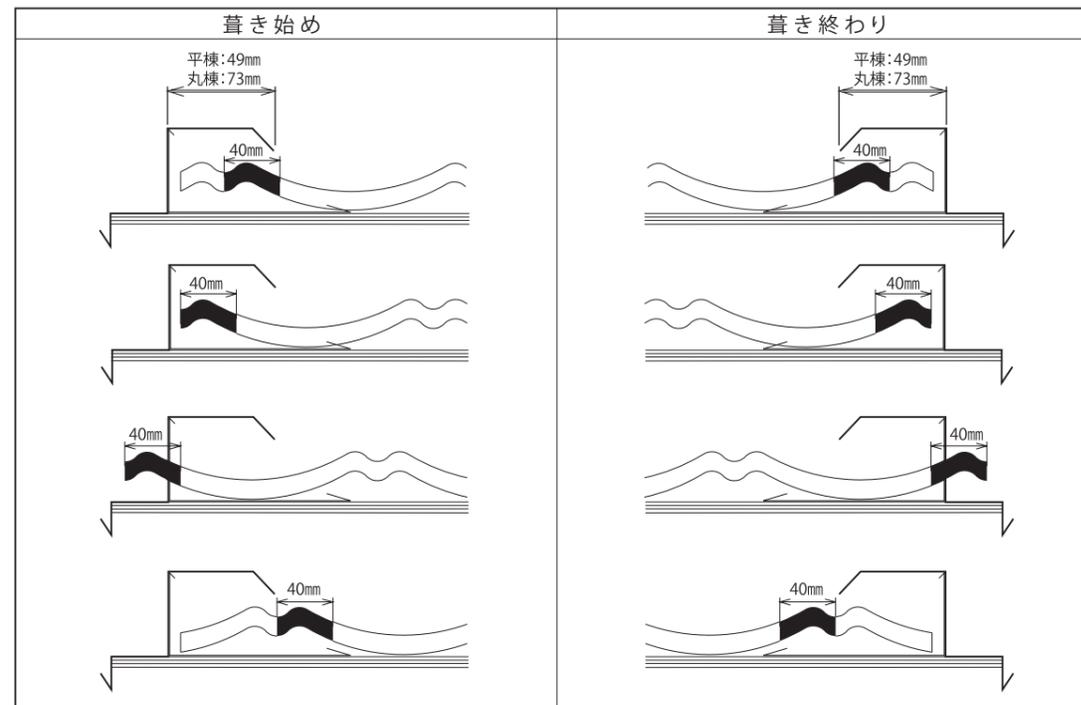


#### ②桁方向

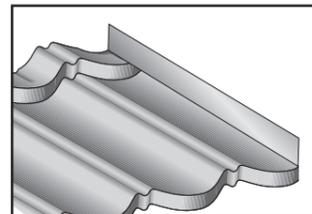
- ケラバ捨板の立ち上がりから10mm離れた位置で左右対称に割付けます。
- ケラバ部は2山以上の瓦を使用してください。



- 本体かわら山センターより40mmの位置がケラバ用スペーサーの中に入るように割付けます。



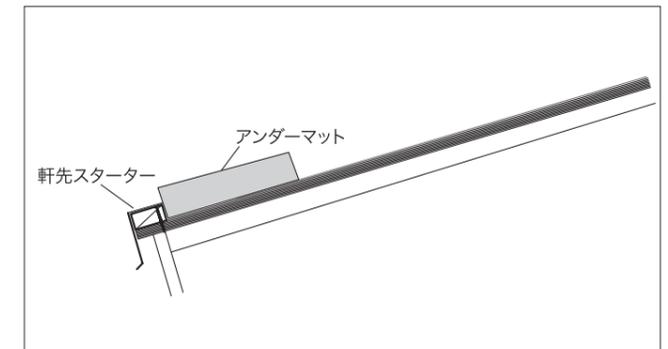
※上記以外の割付けの場合は、本体かわらの端を30mm立ち上げます。



## アンダーマットの取付け

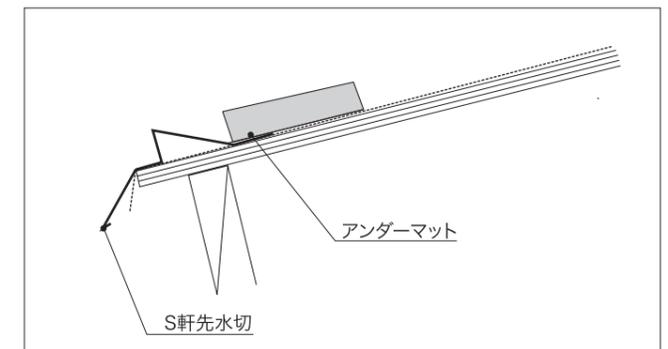
### ■軒先部のアンダーマット取付け (軒先スターター仕様)

- ①軒先部のアンダーマットは、軒先スターターに当たる位置で本体瓦の下に敷き込みます。
- ※アンダーマットには上下の向きがあります。ご注意ください。



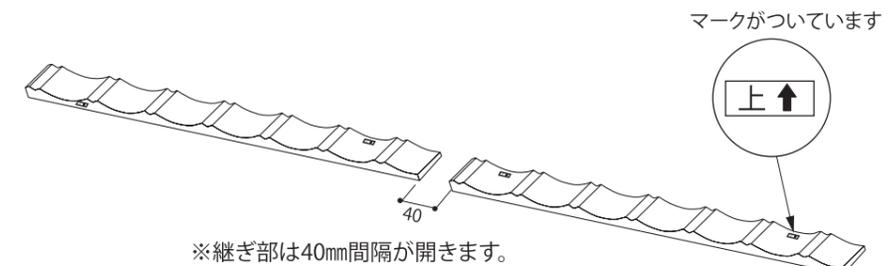
### (S軒先水切仕様)

- ①右図の位置で本体瓦の下に敷き込みます。



### ■横方向の合わせ

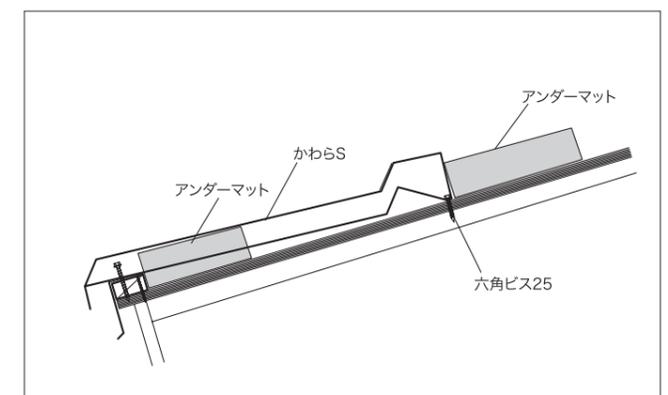
横方向は本体かわらの位置に合わせます。



※継ぎ部は40mm間隔が開きます。

### ■2段目以降のアンダーマット取付け

- ①本体かわら後部に当たる位置で本体かわらの下に敷き込みます。

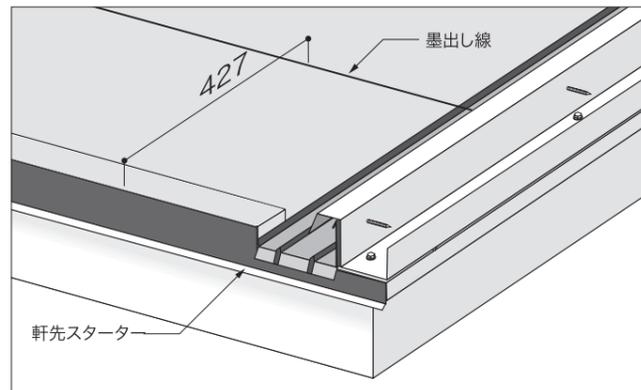
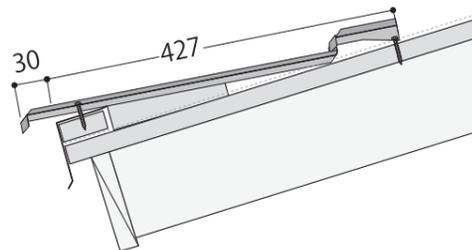


## 本体かわらの施工

### ■墨出し

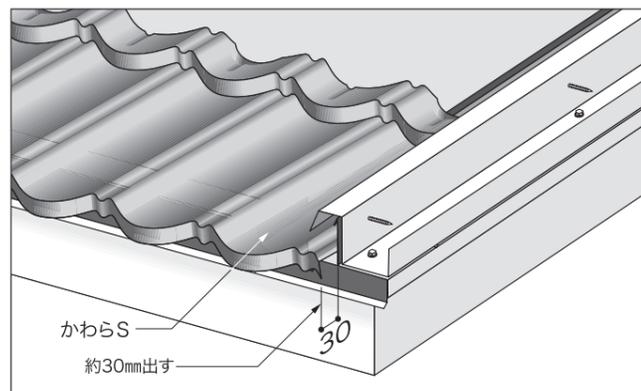
①軒先より427mmの位置に1段目の本体かわら用墨を打ちます。(かわら出寸法30mmの場合)

※墨出しは3段程度が目安です。



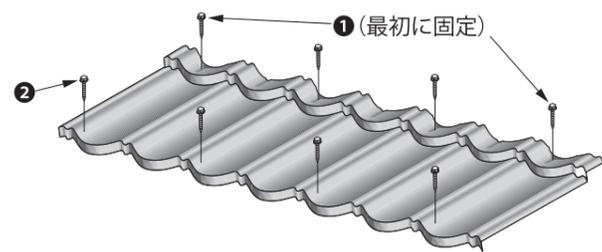
### ■1段目の本体かわら施工

①アンダーマートを敷き込み墨に合わせて本体かわらを取付けます。



### ■1段目の本体かわらの固定

①左から葺きはじめます。

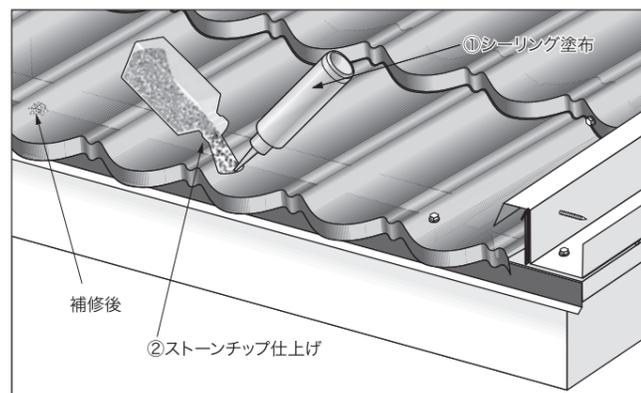
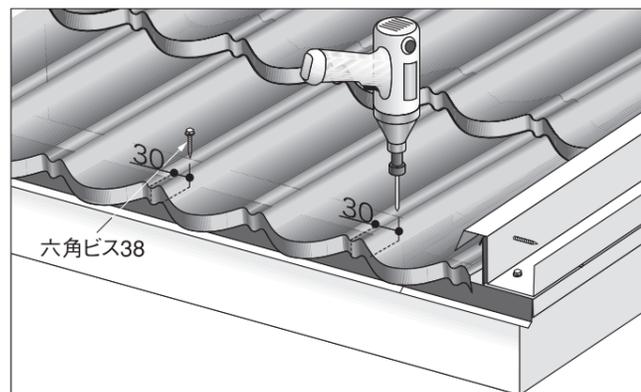


②後端を一山おきに六角ビス25で固定します。(両端を最初に固定)

平板スレートに重ね葺きする場合は六角ビス38を使用

③先端は山センターから30mmの位置に六角ビス38で浅木に固定します。(軒先ネジ75Sも使用できます)

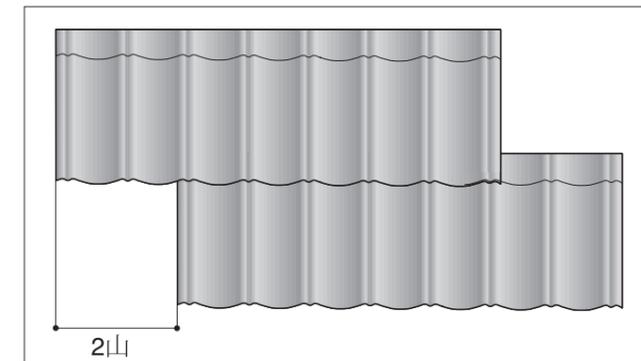
④1段目に留め付けた六角ビス38のビス頭はタッチアップキットで仕上げます。



## 本体かわらの施工

### ■2段目以降／本体かわらの嵌合

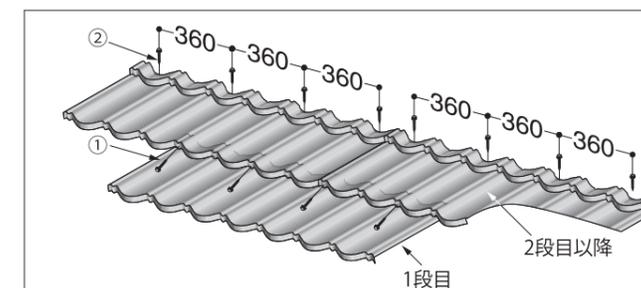
①本体かわらの縦の嵌合部は2山ずらしが標準です。



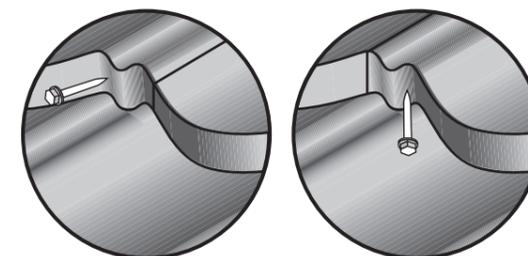
### ■2段目以降／本体かわらの固定

①1段目のかわらとすき間ができないように鼻先部を六角ビス25で1山おきに固定します。

②後端谷部を六角ビスで1山おきに固定します。



※重ね方向によりビスを固定する位置を変えます。

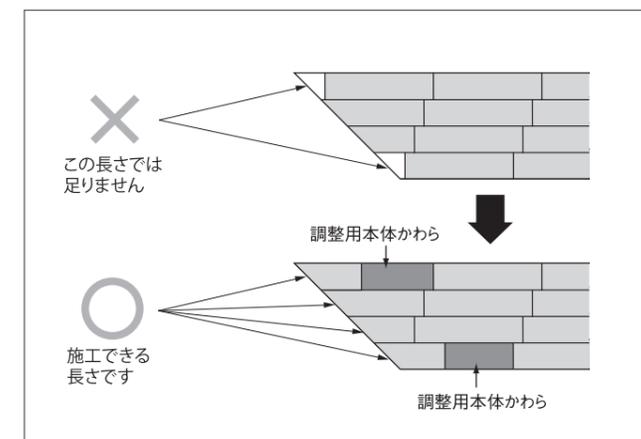
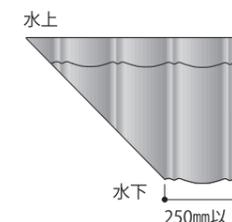


### ■切妻屋根の本体かわら施工

①切妻屋根の場合、左ケラバ部でカットした本体かわらの余りが450mm以上であれば次の段で使用できます。

### ■谷部の本体かわら施工

①谷部の本体の葺き長さ(幅)が水下で250mmより狭くなる場合には、2山以上の本体かわらを入れて調整してください。

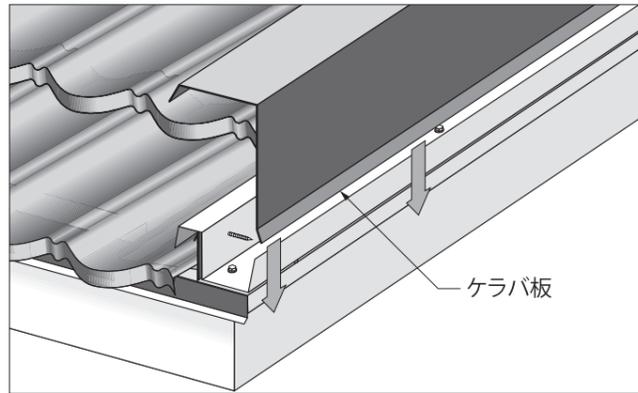


## ケラバ部の施工

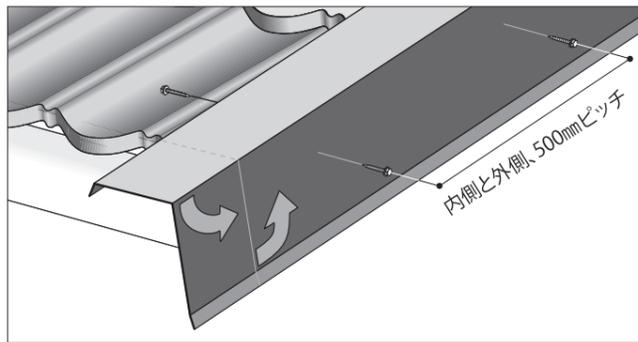
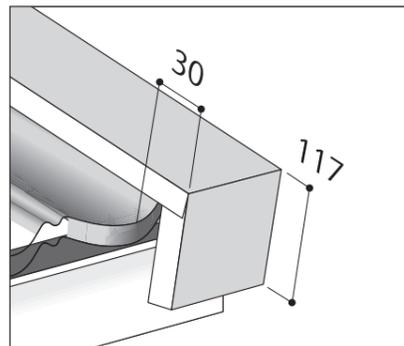
### 平棟仕様

#### ■ケラバ板の取付け

- ①ケラバ板をケラバ用スペーサーに被せます。
- ②内側と外側を六角ビス25で500mmピッチで固定します。

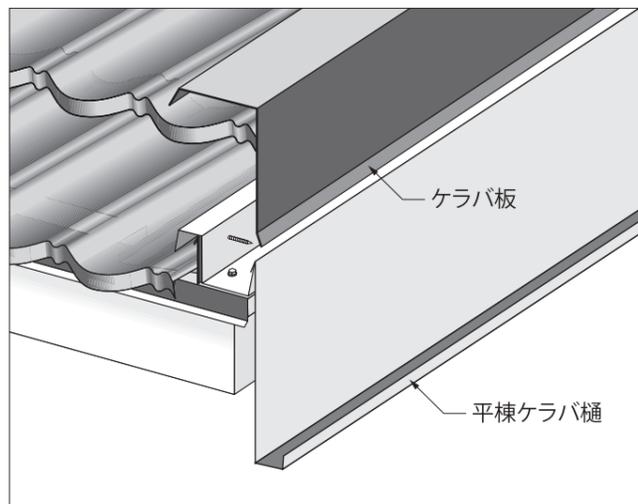


- ③先端は加工して納めます。



#### ■平棟ケラバ樋の取付け

- ①平棟ケラバ樋をケラバスペーサーに引っかけて仮固定し、ケラバ板を被せ同時に六角ビス25で固定します。



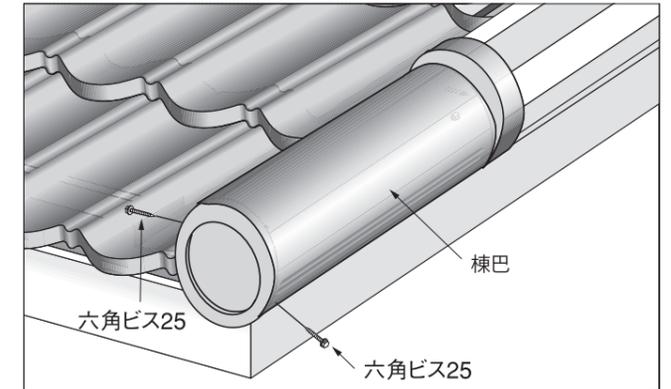
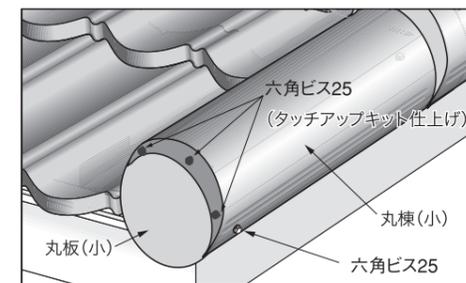
## ケラバ部の施工

### 丸棟仕様

#### ■棟巴の取付け

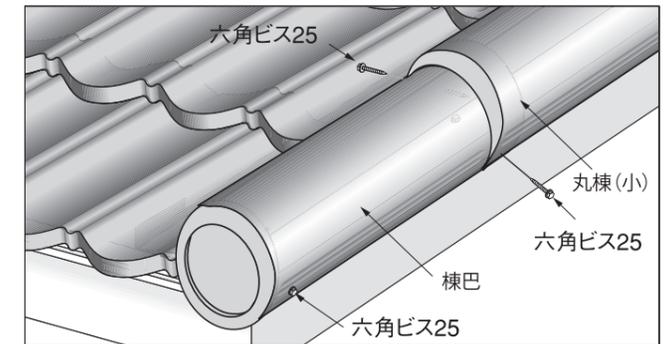
- ①ケラバ先端に棟巴を取付けます。

※棟巴の代わりに丸棟(小)に丸板(小)を取付けた仕様もあります。



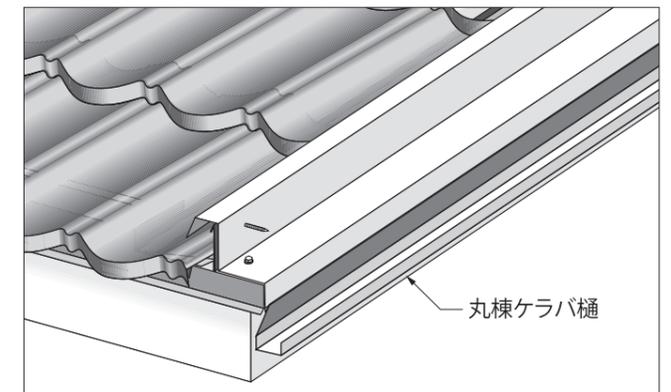
#### ■丸棟(小)の取付け

- ①2段目以降、棟まで丸棟(小)を取付けます。
- ②丸棟(小)先端の下穴部2カ所に六角ビス25で固定します。



#### ■丸棟ケラバ樋の取付け

- ①丸棟ケラバ樋をケラバスペーサーに引っかけて仮固定し、棟巴、丸棟(小)を被せ六角ビス25で固定します。



## 棟の施工

### ■棟際本体かわらの取付け

①棟際で本体かわらの後端を切断した場合は、本体かわら後端を30mm立ち上げます。  
※棟際の本体かわらが小さい場合は、浅木を取付けて高さを調整します。

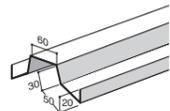
②鼻先部を六角ビス25で固定します。

### ■棟用スペーサーの取付け

①棟用スペーサーにかわらS面戸30×30を貼ります。  
※スペーサーは仕様により使い分けてください。

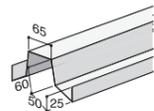
#### ■平棟仕様

●S平棟用スペーサー



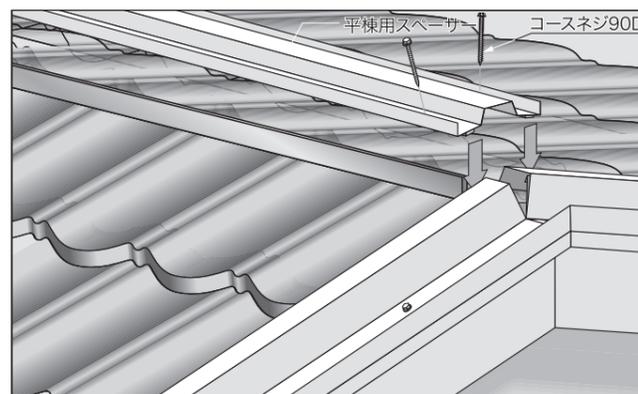
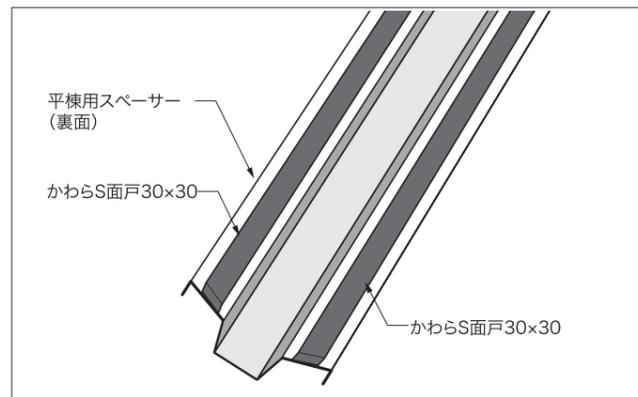
#### ■丸棟仕様

●S丸棟(大)用スペーサー



②棟芯から135mmの位置に墨打ちし、墨に合わせて平棟用スペーサーをコースネジ90Dで1山おきに固定します。

※かわらS面戸30×30の中心位置に固定します。

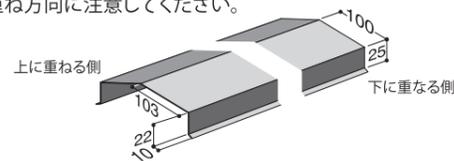


#### ■平棟仕様

### ■棟とケラバ部の取付け

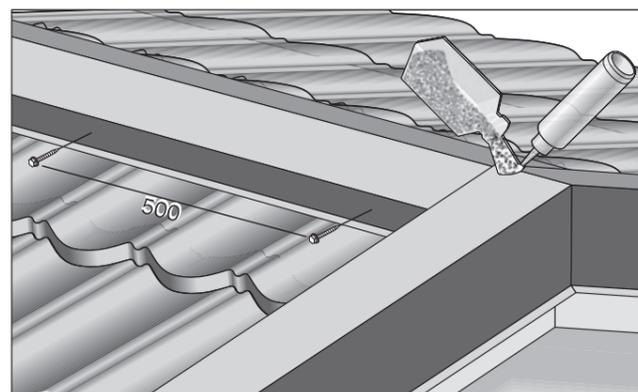
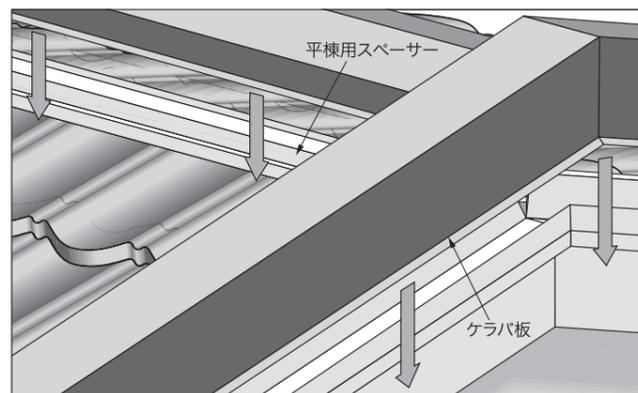
①平棟用スペーサーに平棟を被せ、六角ビス25で500mmピッチ以下で固定します。

※平棟はテーパーが付いていますので重ね方向に注意してください。



②ケラバ板を被せ、六角ビス25で固定します。

③ケラバ板と平棟の重なり部、ケラバ板の頂部をタッチアップキットで仕上げます。



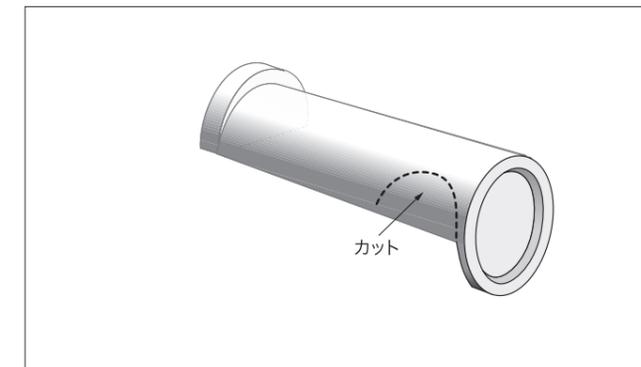
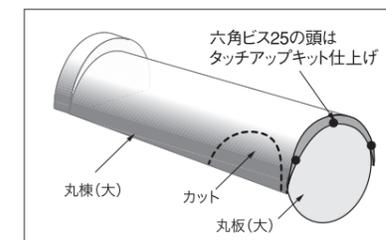
## 棟の施工

### ■丸棟仕様

### ■丸棟鬼の加工

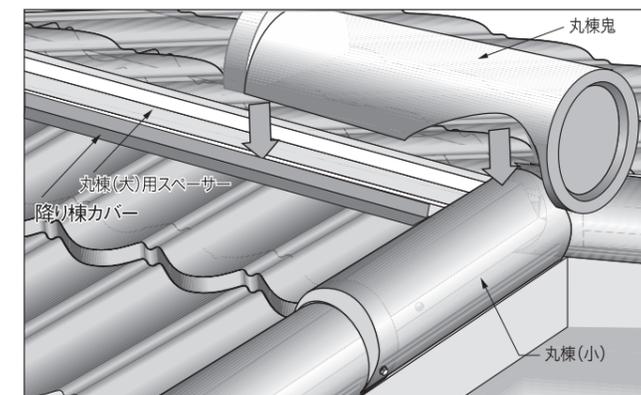
①ケラバの乗り越え部分をカットします。

※丸棟鬼の代わりに丸棟(大)に丸板(大)を取付けた仕様もあります。



### ■棟とケラバ部の取付け

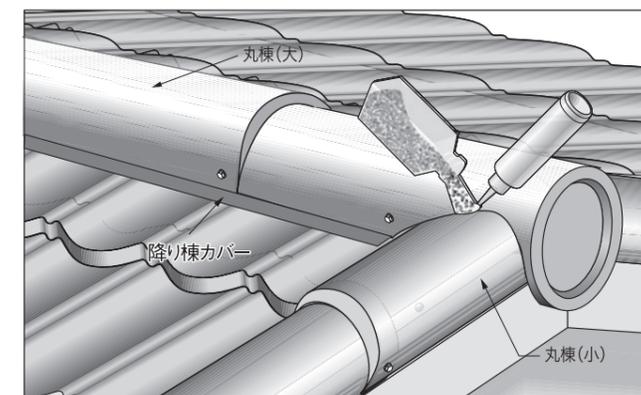
①降り棟カバーを丸棟(大)用スペーサーに添わせ、加工した丸棟鬼をかぶせて六角ビス25で2ヶ所固定します。



②丸棟(大)を丸棟(大)用スペーサーに被せ、六角ビス25で2ヶ所固定します。

③丸棟(大)はセンターで100mm重ねて取り付けます。重ね部は2条コーキング処理し、タッチアップキットで仕上げます。

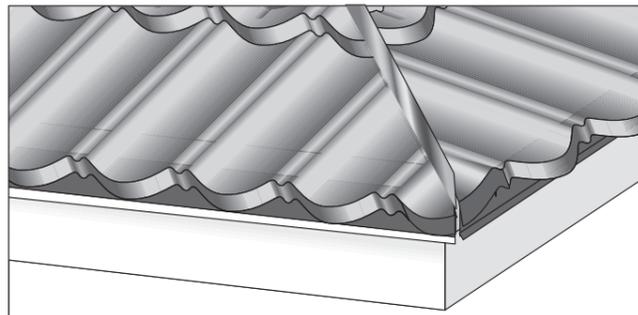
④丸棟鬼と丸棟(小)の重なり部、丸棟(小)の頂部をタッチアップキットで仕上げます。



## 降り棟部の施工

### ■本体かわらの施工

- ①本体は棟芯に合わせて斜めにカットし立ち上げます。



### ■棟用スペーサーの取付け

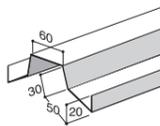
- ①棟用スペーサーにかわらS面戸30×40を貼りつけます。

- ②コースネジ90Dで一山おきに固定します。  
※かわらS面戸30×40の中心位置に固定します。

- スペーサーは仕様により使い分けてください。

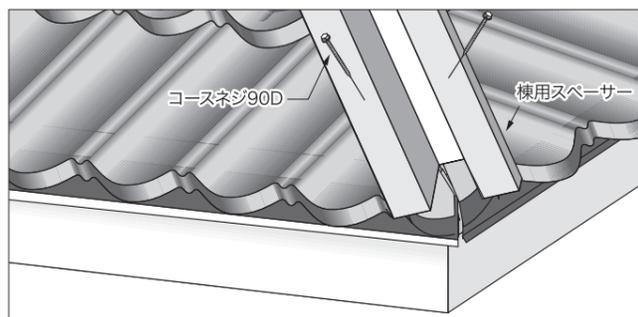
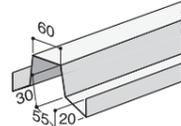
#### ■平棟仕様

- S平棟用スペーサー



#### ■丸棟仕様

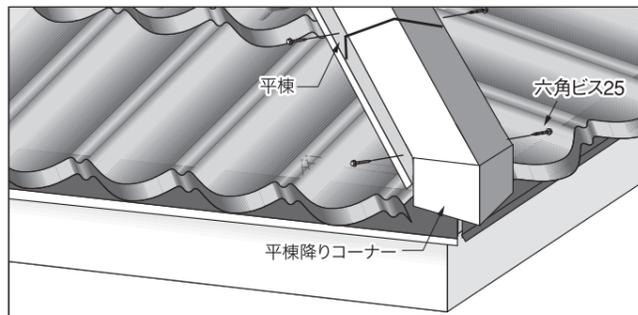
- S丸棟(小)用スペーサー



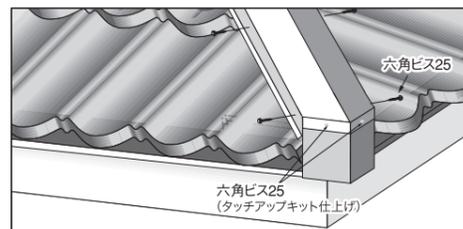
#### ■平棟仕様

### ■降り棟の取付け

- ①降り棟先端に平棟降りコーナーを六角ビス25で2カ所固定します。
- ②平棟降りコーナーに平棟を100mm重ね、六角ビス25で500mmピッチ以下で固定します。  
※重ね部には2条シーリング処理します。



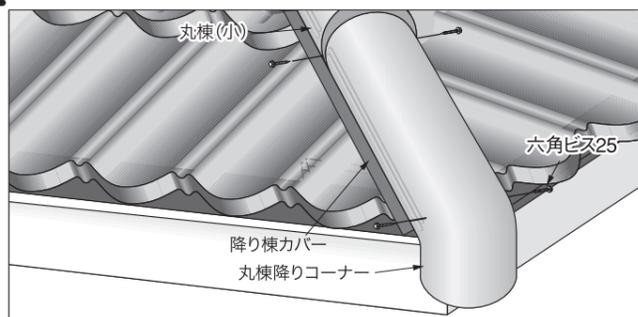
※平棟降りコーナーの代わりに平棟を加工した仕様もあります。



#### ■丸棟仕様

### ■降り棟の取付け

- ①降り棟カバーを丸棟(小)用スペーサーに添わせ、降り棟先端に丸棟降りコーナーを被せて六角ビス25で2カ所固定します。
- ②丸棟降りコーナーに丸棟(小)を被せ、丸棟(小)の下穴部2カ所に六角ビス25で固定します。
- ③丸棟(小)を棟頂部まで取付けます。

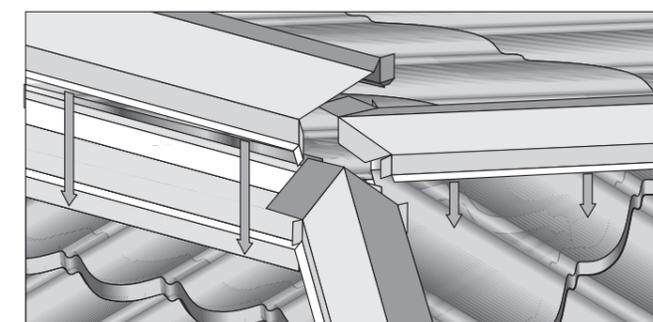
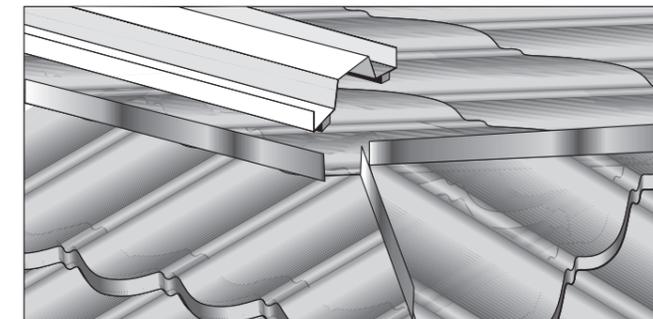
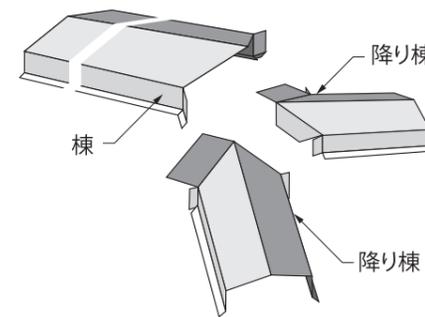


## 三ツ又部の施工

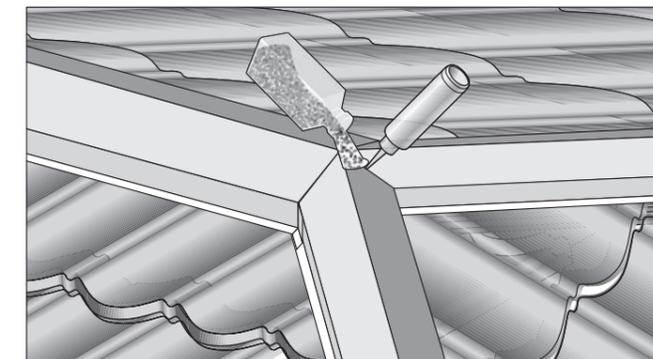
#### ■平棟仕様

### ■三ツ又棟部の加工と取付け

- ①棟、降り棟の交差部は平棟を加工して取付けます。



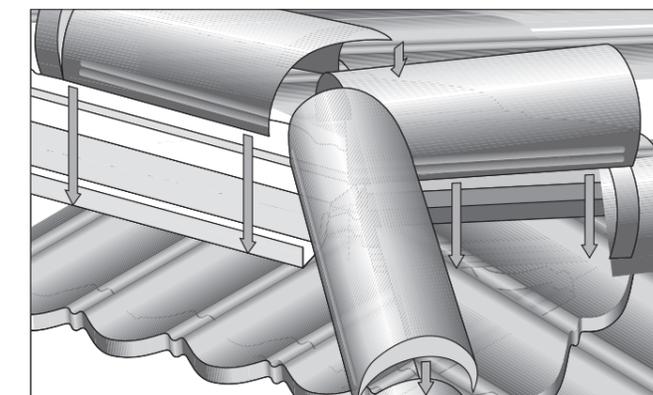
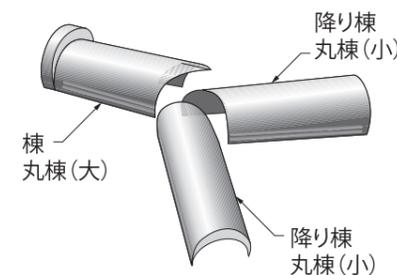
- ②平棟の合わせ部をタッチアップキットで仕上げます。



#### ■丸棟仕様

### ■三ツ又棟部の加工と取付け

- ①棟、降り棟の交差部は丸棟(大)と丸棟(小)を加工して取付けます。

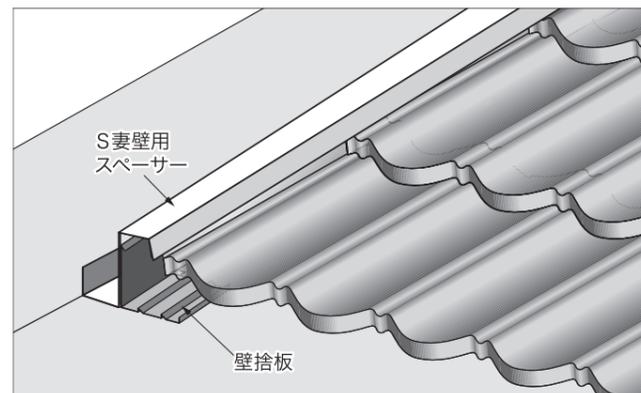


- ②丸棟の合わせ部をタッチアップキットで仕上げます。

## 妻壁部の施工

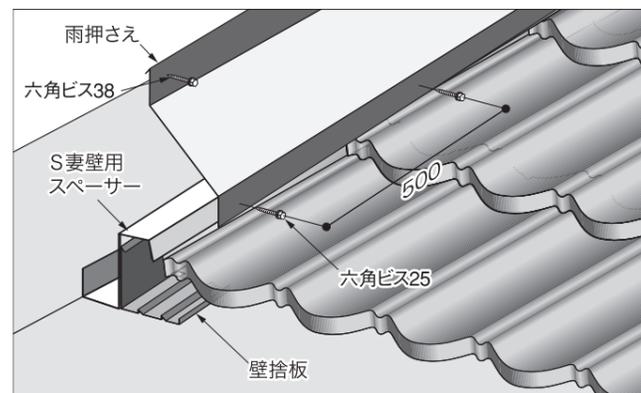
### ■壁捨板・本体かわらの取付け

- ①S妻壁用スペーサーを六角ビス25で500mmピッチで固定します。
- ②壁捨板をS妻壁用スペーサーに六角ビス25で固定します。
- ③本体かわらを施工します。  
※本体かわら端を30mm立ち上げて取付けます。



### ■雨押さえB(80)の取付け

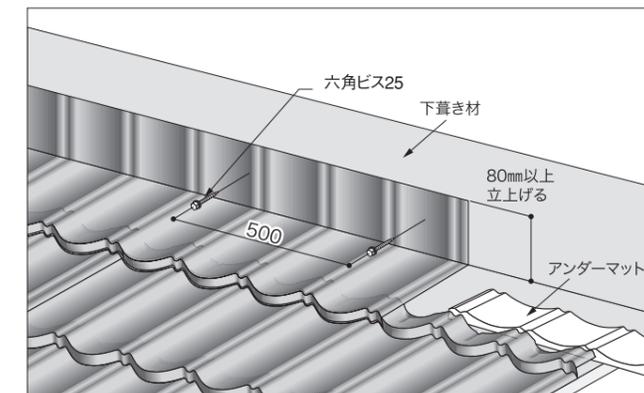
- ①雨押さえB(80)をS妻壁用スペーサー・壁下地に六角ビス25と六角ビス38で500mmピッチで取付けます。



## 桁壁部の施工

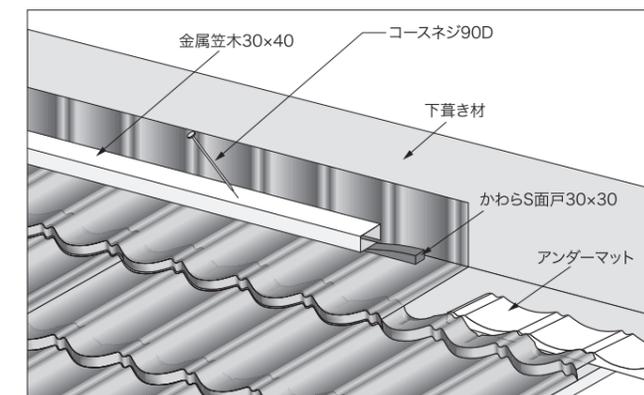
### ■本体かわらの取付け

- ①壁際の本体かわらを80mm以上立ち上げ、六角ビス25で500mmピッチで固定します。



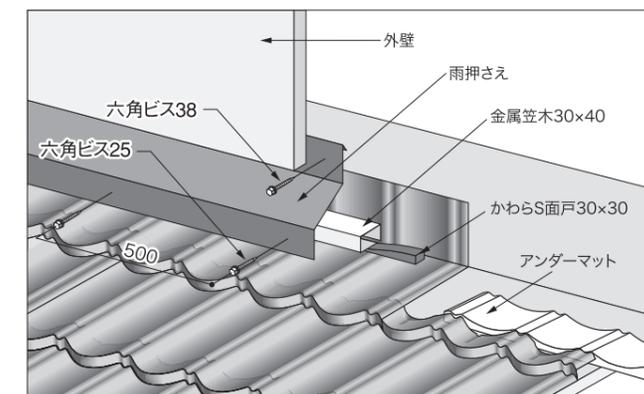
### ■かわらS面戸30×30・栈木の取付け

- ①金属笠木30×40にかわらS面戸30×30を貼り、壁際にコースネジ90Dで1山おきに固定します。



### ■雨押さえB(80)の取付け

- ①雨押さえB(80)を金属笠木30×40と壁下地に六角ビス25と六角ビス38で約500mmピッチで固定します。

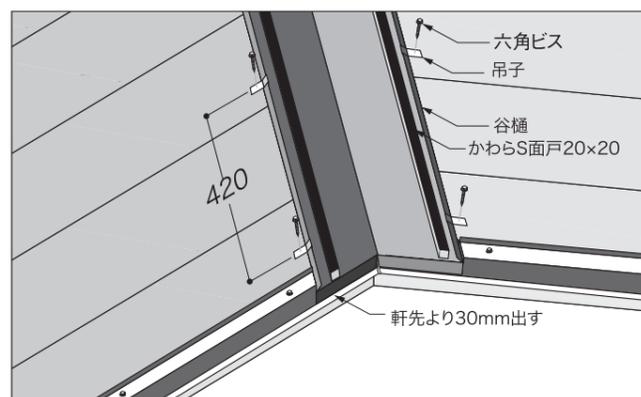
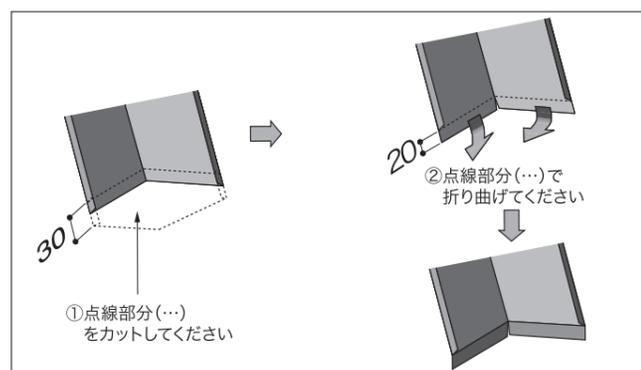
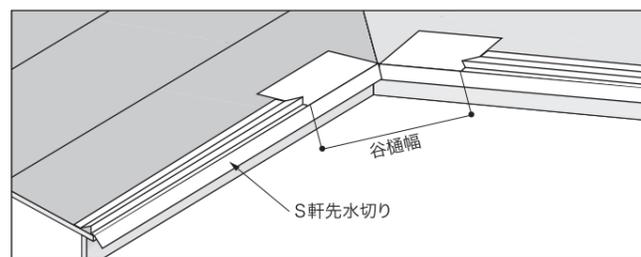
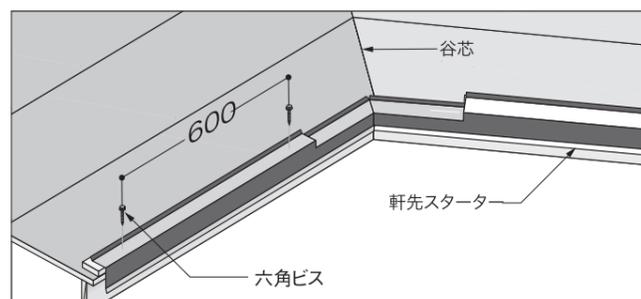
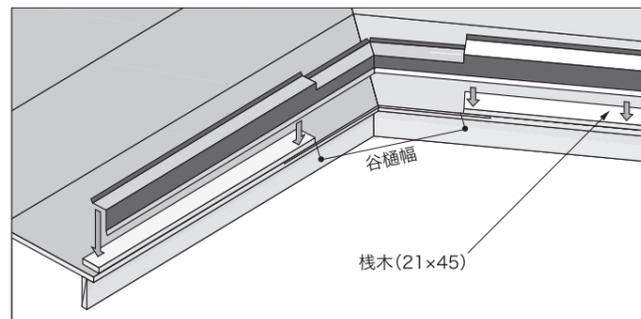
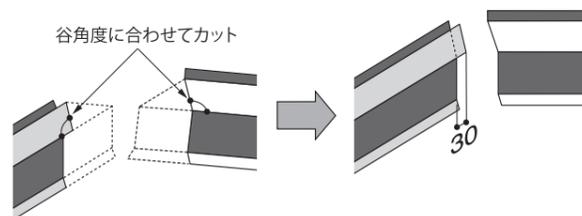


## 谷部の施工

### ■軒先スターター仕様

#### ■軒先スターターの取付け

- ① 桟木(21×45)を谷樋の幅寸法分を離して取付けます。
- ② 軒先スターターを加工し、六角ビス25で600mm以下のピッチで固定します。  
※重ね部はシーリング処理します。



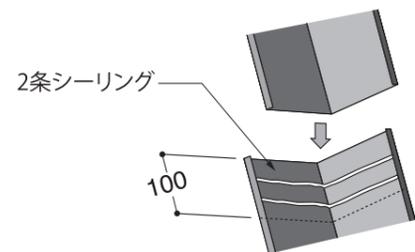
### ■S軒先水切仕様

#### ■S軒先水切りの取付け

- ① 谷樋が乗る部分のS軒先水切りを加工し六角ビス25で600mm以下のピッチで固定します。

#### ■谷樋の取付け ※W谷樋も同様に行います

- ① 谷樋先端を20mm折り曲げ、軒先スターターより30mm出して取付けます。
- ② 現場加工の吊子を使用し、500mmピッチで取付けます。
- ③ 谷樋の接続は100mm重ね、重ね部に2条シーリング処理します。

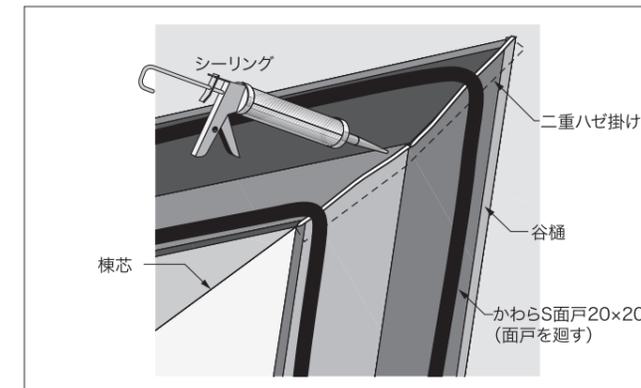
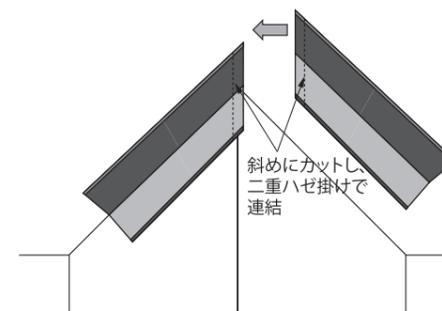


- ④ 谷芯から80mmの位置にS面戸20×20を貼付けます。

## 谷部の施工

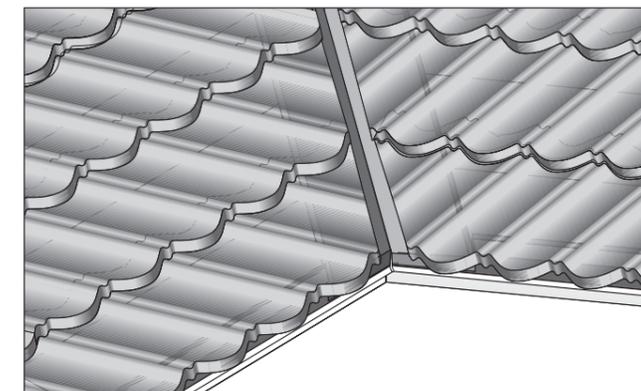
### ■谷頂部の施工

- ① 谷頂部は谷樋を2重ハゼ掛けで納めます。  
※重ね部はシーリング処理します
- ② 谷頂部はS面戸20×20を廻して貼付けます。



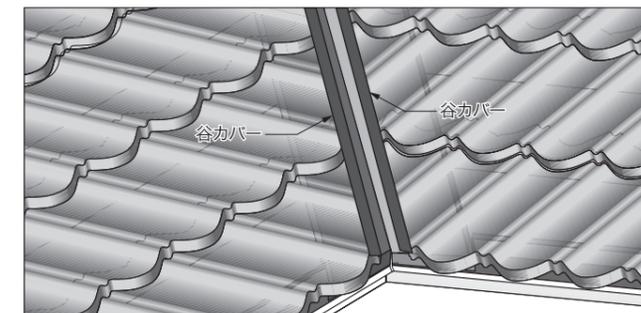
### ■本体かわらの取付け

- ① 本体は谷芯から50mmの位置まで施工します。  
※谷カバーを取付けない場合は、切断面が露出しないように折り曲げます。



### ■谷カバーの取付け

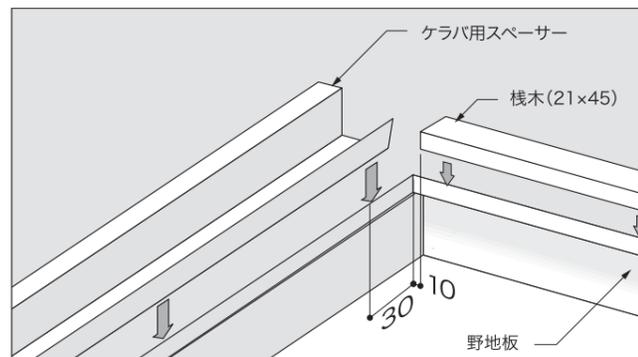
- ① 谷カバーは本体かわら山部に六角ビス25で一山おきに固定します。



## すがり部の施工

### ■ 桧木 (21×45) の取付け

① 桧木 (21×45) をケラバから10mmの位置まで取付けます。

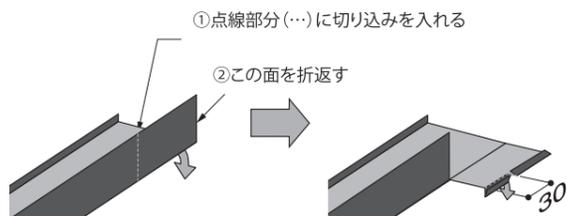


### ■ ケラバ用スペーサーの取付け

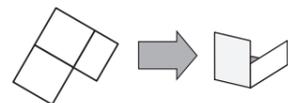
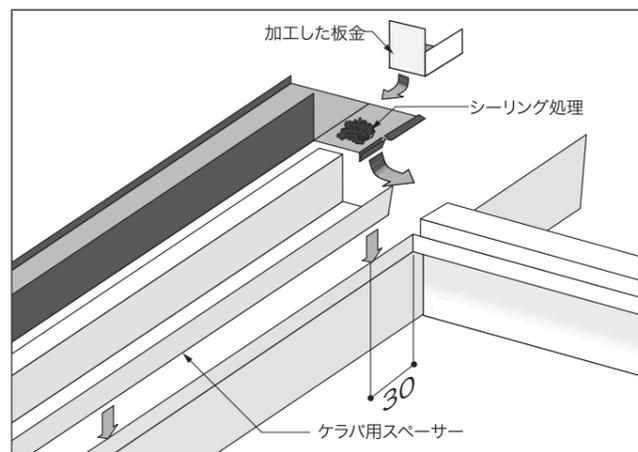
① ケラバ用スペーサーを30mm控えた位置まで取付けます。

### ■ ケラバ捨板の取付け

① ケラバ捨板を加工し、ケラバスペーサーに六角ビス25で固定します。

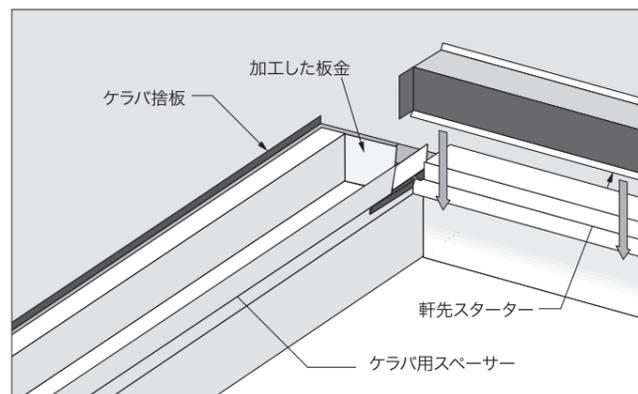
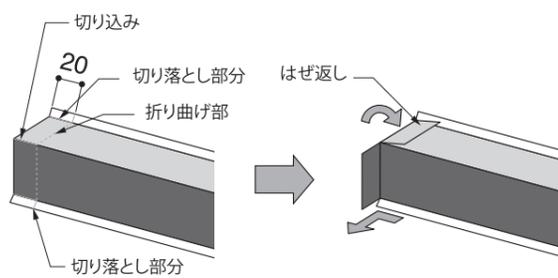


② ケラバスペーサーの上端に加工した板金を取付けます。  
※ 取り付け部にシーリング処理します。



### ■ 軒先スターターの取付け

① 端部を加工した軒先スターターを取付けます。

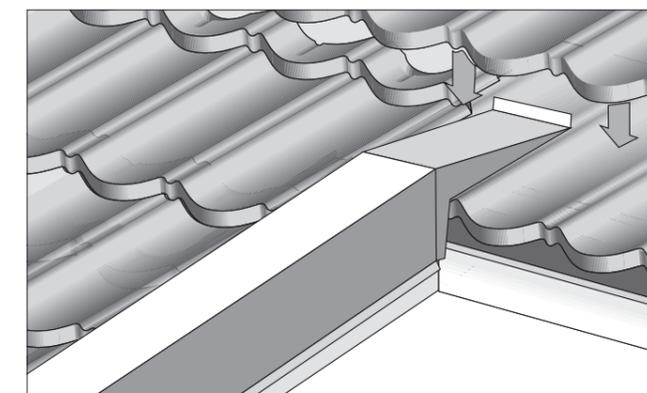
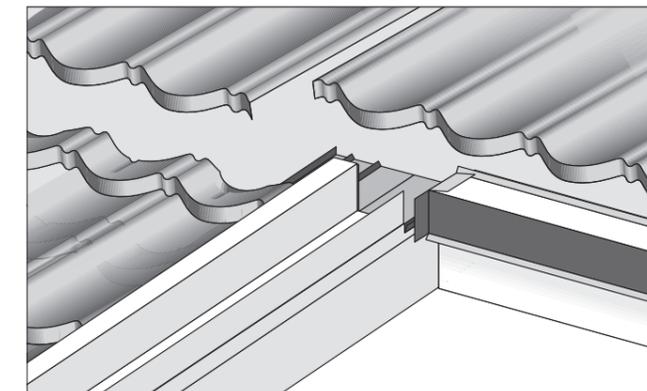
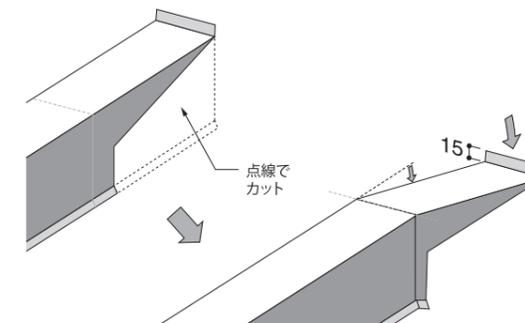


## すがり部の施工

### ■ ケラバ板の取付け

① 本体かわらをすがり部まで施工します。

② ケラバ板を下図のように加工し取付けます。



### ■ 本体かわら働き調整

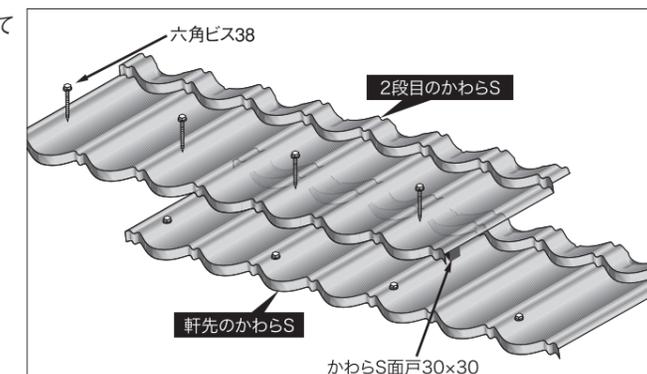
① すがり部本体かわらの先端を揃えるために働き寸法を調整して施工します。

② 本体かわら裏面にかわらS面戸30×30をかから形状に合わせて貼ります。

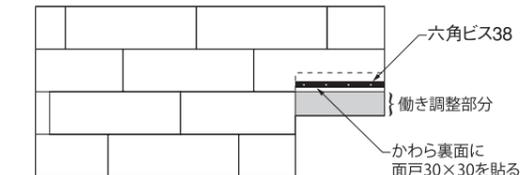


③ かわらS面戸30×30より上部の山斜面に六角ビス38で固定します。

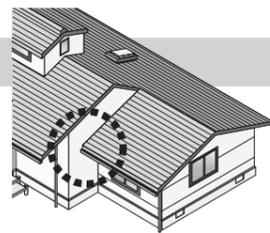
④ 六角ビスの頭部はタッチアップキットで仕上げます。



● 働き調整部を真上から見ると



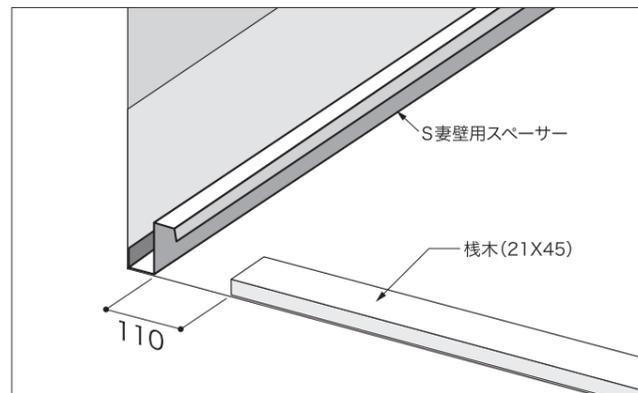
## 軒先・壁交差部の施工



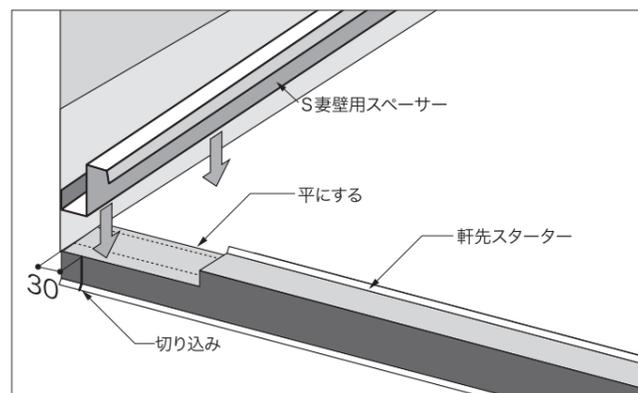
※軒先スターター仕様の場合

### ■軒先スターターの取付け

- ①妻壁用スペーサーから110mmの位置まで棧木(21×45)を取付けます。

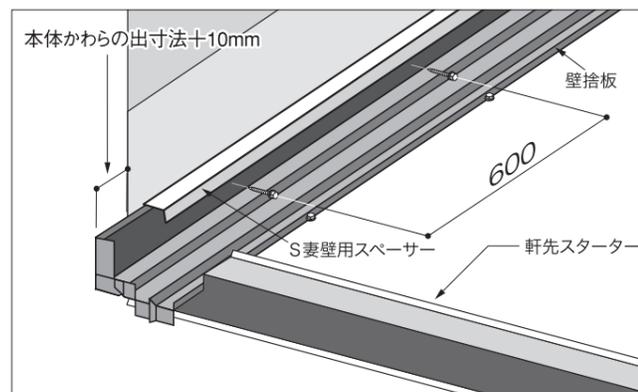
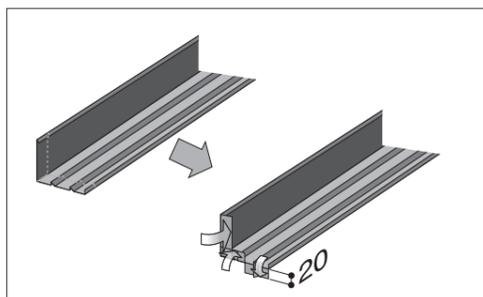


- ②ケラバ部と同様に加工した軒先スターターを取付けます。  
※軒先スターター下端部の端から30mmの位置に水切り用の切り込みを入れます。



### ■壁捨板の取付け

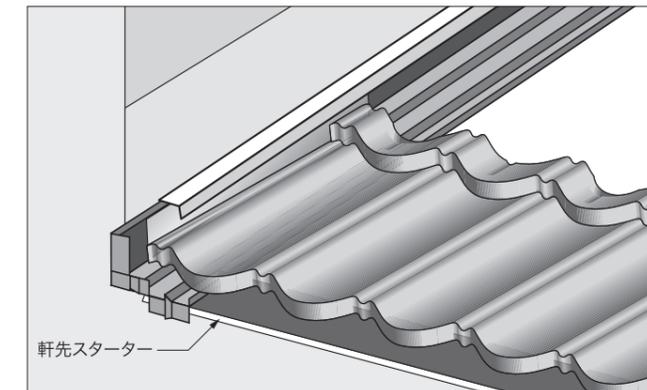
- ①先端を水返し加工した壁捨板を本体かわらから10mm出した位置に六角ビス25でS妻壁用スペーサーに固定します。



## 軒先・壁交差部の施工

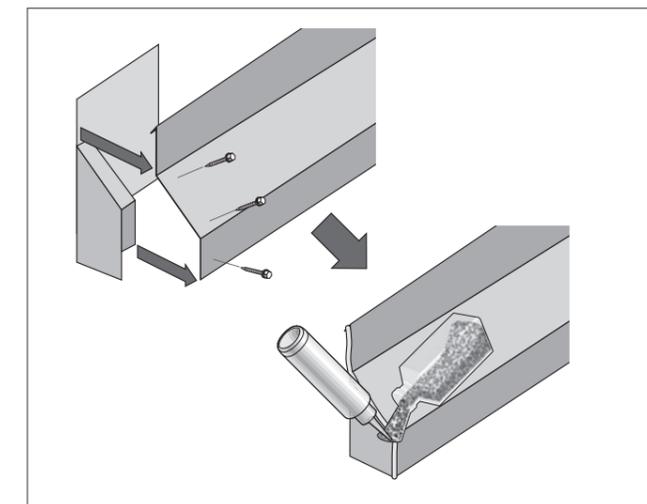
### ■本体の施工

- ①本体を施工します。  
※本体かわら端を30mm立ち上げて取付けます。

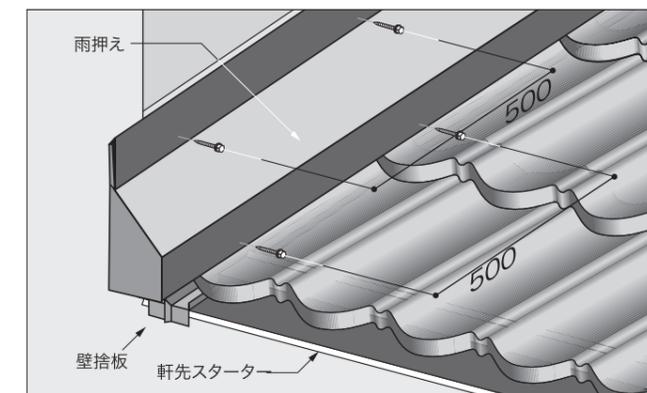


### ■雨押さえB(80)の取付け

- ①雨押さえB(80)の先端に加工した部品を取付け、合わせ部をタッチアップキットで仕上げます。



- ②加工した雨押さえB(80)を妻壁用スペーサーと壁下地に六角ビス25と六角ビス38で500mmピッチで固定します。



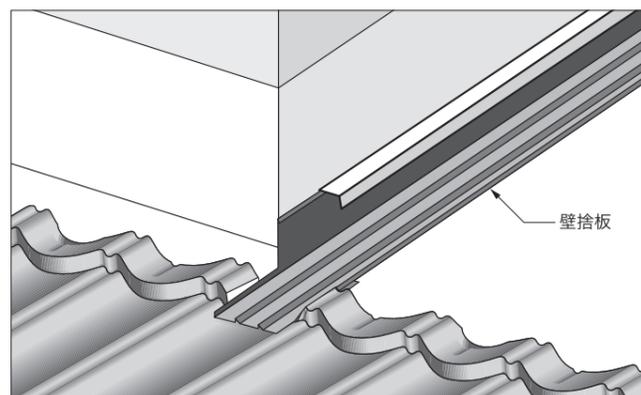
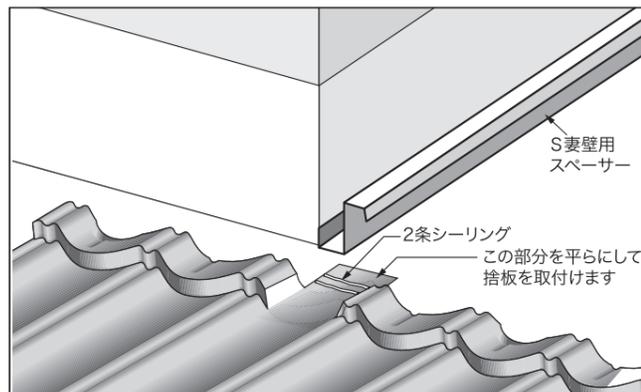
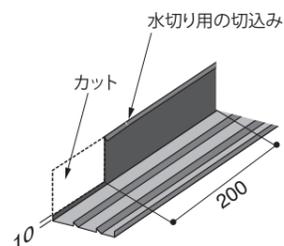
## 出隅部の施工

### ■ 本体かわらの取付け

- ① 壁捨板が乗る部分を加工した本体かわらを取付けます。

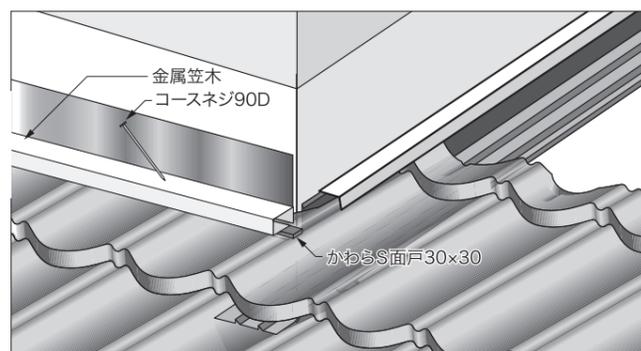
### ■ 壁捨板の取付け

- ① 本体かわらの加工部を2条シーリング処理し、先端を加工した壁捨板を置き、六角ビス25でS妻壁用スペーサーに固定します。



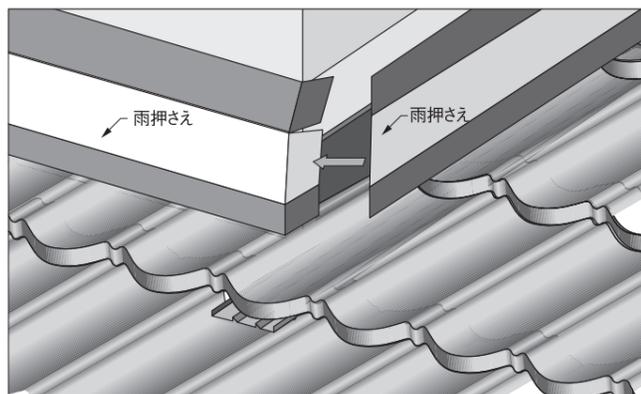
### ■ 金属笠木30×40・かわらS面戸30×30の取付け

- ① 壁際の本体かわらを80mm以上立ち上げて取付けます。
- ② 金属笠木30×40にかわらS面戸30×30を貼りコースネジ90Dで一山おきに固定します。



### ■ 雨押さえB(80)の取付け

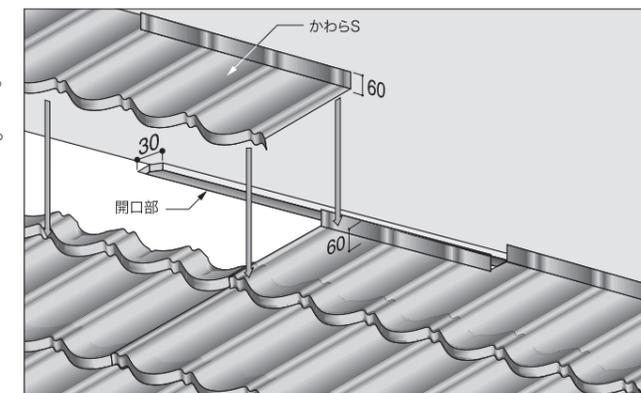
- ① コーナー部を加工した雨押さえB(80)を六角ビスで500mmピッチで固定します。
- ② 加工した雨押さえB(80)の合わせ部はタッチアップキットで仕上げます。



## 棟換気部の施工

### ■ 野地板の加工と本体かわらの取付け

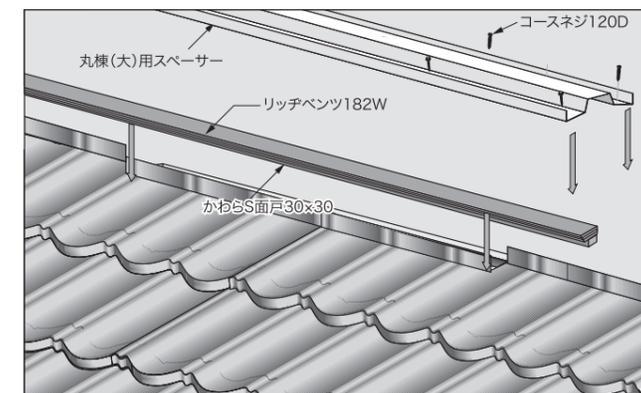
- ① 換気部は野地板の棟芯部に30mm幅の開口部をあけます。
- ② 換気部の本体かわらは60mm立ち上げ加工をして取付けます。



### 平棟仕様

### ■ リッチベンツ182Wの取付け

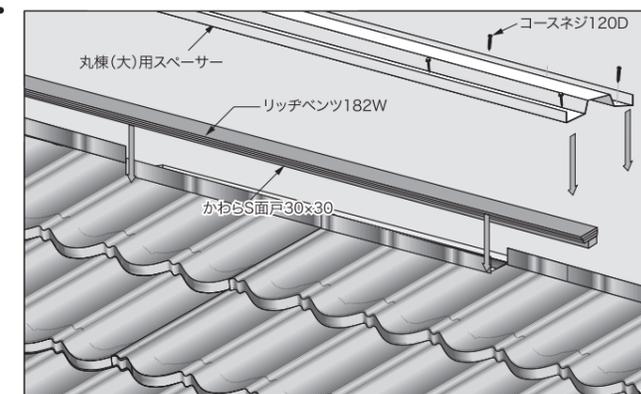
- ① リッチベンツ182WにS面戸30×30を貼って本体かわらに置き、平棟用スペーサーをコースネジ120Dで1山おきに固定します。
- ② 平棟用スペーサーに平棟を被せ六角ビス25で固定します。



### 丸棟仕様

### ■ リッチベンツ182Wの取付け

- ① リッチベンツ182WにS面戸30×30を貼って本体かわらに置き、丸棟(大)用スペーサーをコースネジ120Dで1山おきに固定します。
- ② 丸棟(大)用スペーサーに丸棟(大)を被せ六角ビス25で固定します。



## 雪止金具の施工

### ■雪止金具の取付け基準

●積雪量、勾配、流れ長さにより、下表を参考に取付け段数を決めてください。

雪止金具1段の場合：本体かわらの2段目に固定します。

雪止金具2段の場合：本体かわらの2段目に固定及び流れ長さの1/2の位置に固定します。

雪止金具3段の場合：本体かわらの2段目に固定及び流れ長さの1/3の位置に各々固定します。

●固定位置は1山おき

#### ■積雪50cm未満

積雪量	勾配	流れ長さ (m)							
		4	5	6	7	8	9	10	
50cm未満	2.5	1段							
	4								
	5							2段	
	6								2段

#### ■積雪100cm未満

積雪量	勾配	流れ長さ (m)							
		4	5	6	7	8	9	10	
100cm未満	2.5	1段							
	4							2段	
	5								3段
	6								3段

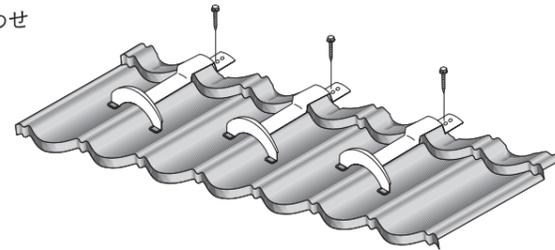
#### ■積雪150cm未満

積雪量	勾配	流れ長さ (m)							
		4	5	6	7	8	9	10	
150cm未満	2.5	1段							
	4							3段	
	5			2段			3段	4段	
	6			3段		4段	5段		

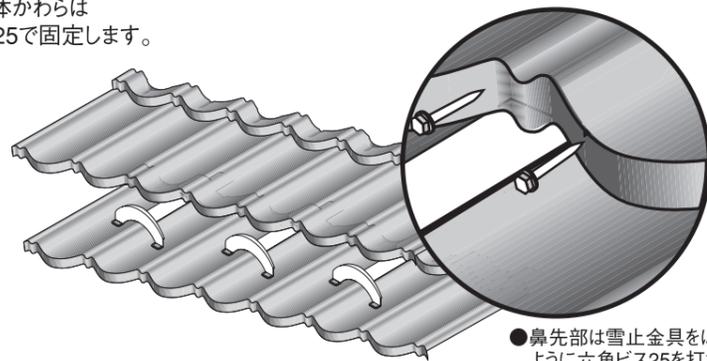
#### ■積雪200cm未満

積雪量	勾配	流れ長さ (m)							
		4	5	6	7	8	9	10	
200cm未満	2.5	1段							
	4			2段			3段		
	5				3段		4段	5段	
	6			3段	4段		5段		

①本体かわらの後端に雪止金具を合わせ野地面に六角ビスで固定します。



②雪止金具の上にかぶせる本体かわらは鼻先部を2カ所ずつ六角ビス25で固定します。

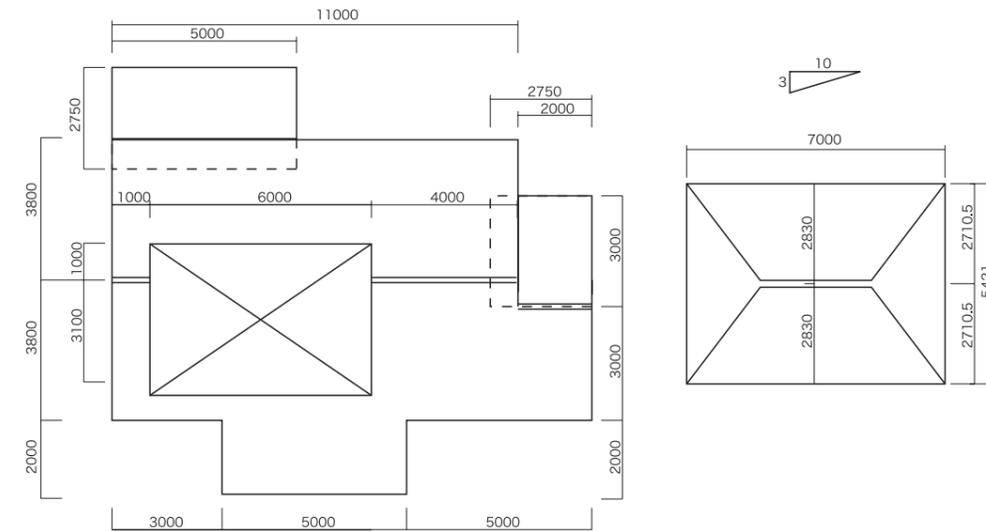


●雪止金具との干渉を避けるために、電動ドライバーにユニバーサルジョイントの使用をおすすめします。

●鼻先部は雪止金具をはさみこむように六角ビス25を打ちます。

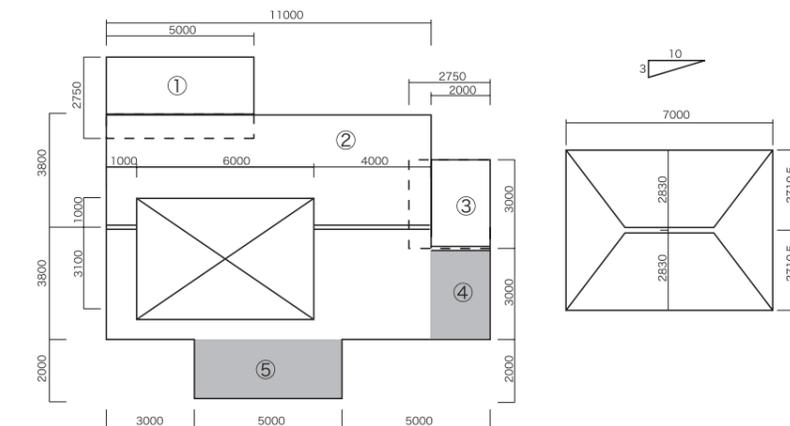
## 屋根寸法の実測と屋根面積の出し方

●屋根伏図の書き方 測れる部位は、全て測り記入してください。



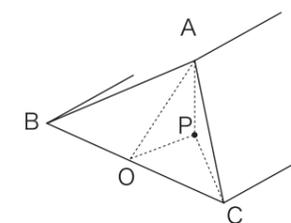
●屋根面積の出し方

屋根面積を計算しやすいように区分する。



$$\begin{aligned}
 &① 5 \times 2.75 = 13.75 \\
 &② \{11 \times (3.8+3.8) - [6 \times (3.1+1)]\} = 59 \\
 &\quad \downarrow \\
 &\quad \text{2階がある所} \\
 &③ 2.75 \times 3 = 8.25 \\
 &④ 2 \times 3 = 6 \\
 &⑤ 5 \times 2 = 10 \\
 &⑥ 7 \times (2.83+2.83) = 39.62 \\
 &\quad \text{合計 : } 136.62
 \end{aligned}$$

●屋根の伸び率



勾配	OA	AC	勾配	OA	AC
流れの伸び	流れの伸び	降り棟の伸び	流れの伸び	流れの伸び	降り棟の伸び
2.0/10	1.020	1.428	6.5/10	1.193	1.556
2.5/10	1.031	1.436	7.0/10	1.221	1.578
3.0/10	1.044	1.446	7.5/10	1.250	1.601
3.5/10	1.059	1.457	8.0/10	1.281	1.625
4.0/10	1.077	1.470	8.5/10	1.312	1.650
4.5/10	1.097	1.484	9.0/10	1.345	1.676
5.0/10	1.118	1.500	9.5/10	1.379	1.704
5.5/10	1.141	1.517	10.0/10	1.414	1.732
6.0/10	1.166	1.536			

## 材料積算方法

### 平棟仕様

分類	品名	注意点	積算方法(単位:面積㎡×長さm)	
本体	かわらS本体瓦	1山瓦は使用不可	切妻:屋根面積×2.5 寄棟:屋根面積×2.6	
	Sアンダーマット	本体かわら1枚に1本		
板金部材	軒先スターター	軒先部(何れかを選択)	軒長さ÷1.95	
	S軒先水切り4.5寸			
	S軒先水切り8寸			
	S軒先カバー	軒先部(重ね葺き用)	軒長さ÷1.95	
	Sケラバ板	ケラバ部	ケラバ長さ÷1.9	
	Sケラバスパーサー45			
	Sケラバ捨板140			
	S平棟ケラバ樋			
	S平棟	棟部・降り棟部	(棟長さ+降り棟長さ)÷1.9	
	S平棟用スパーサー	降り棟先端(平棟を加工しない場合)	屋根形状より算出	
	S平棟降りコーナー			
	谷樋	谷部(何れかを選択)	谷長さ÷1.9	
	SⅡW谷樋			
	S谷カバー	谷部	谷長さ÷0.95	
	雨押さえB	妻壁部・桁壁部	(妻壁長さ+桁壁長さ)÷1.9	
	雨押さえ80			
	金属笠木30×40	桁壁部	桁壁長さ÷2.0	
S妻壁用スパーサー	妻壁部	妻壁長さ÷1.9		
S壁捨板				
面戸部材	S面戸20×20×2000	谷部	谷長さ÷1.0	
	S面戸30×30×2000	棟部・桁壁部	棟長さ÷1.0+桁壁長さ÷2.0	
	S面戸30×40×2000	降り棟部	降り棟長さ÷1.0	
固定部材	専用ビスJP25ミリ(500入)	本体かわらおよび部材の固定	屋根面積×23	
	ステンレスビス25ミリ(約200入)			
	軒先ネジ75S	軒先部(軒先水切を使用する場合)	軒長さ÷0.36	
	専用ビスJP38ミリ(500入) <sup>(注1)</sup>	本体かわらの固定および壁際部	屋根面積×23(妻壁長さ+桁壁長さ)÷0.5	
	ステンレスビス38ミリ(約200入) <sup>(注1)</sup>			
	専用ビスJP50ミリ(500入)	軒先部(軒先スターターを使用する場合)	軒長さ÷0.36	
	リッチペンツ182W	棟換気部に換気棟を使用しない場合	棟換気のある棟長さ÷1.82	
	S雪止金具	落雪防止部	取付長さ÷0.36	
	平板400×2000	標準部材で納まらない特殊部位	屋根形状より算出	
	付属部材・他	タッチアップキット	接続部の仕上げ・他	1棟に1~2セット
		マグネットソケット	ビス用工具	必要数

(注1) 着色平板スレート瓦等での重ね葺きの場合は六角ビス38を使用

## 材料積算方法

### 平棟仕様

●お施主様名

●ご住所

●TEL

#### ●屋根面積 各部寸法

	屋根勾配	屋根面積	軒長さ	ケラバ長さ	棟長さ	降り棟長さ	桁壁長さ	妻壁長さ	谷長さ
2F									
1F									
合計									

#### ●部材数量

品名	梱包数	部材数量			
		1F	2F	予備	合計
かわらS本体瓦	300				
Sアンダーマット	30				
軒先スターター	10				
S軒先水切り4.5寸	10				
S軒先水切り8寸	10				
S軒先カバー	5				
Sケラバ板	5				
Sケラバスパーサー45	10				
Sケラバ捨板140	10				
S平棟ケラバ樋	10				
S平棟	10				
S平棟用スパーサー	5				
S平棟降りコーナー	5				
谷樋	5				
SⅡW谷樋	5				
S谷カバー	10				
雨押さえB	10				
雨押さえ80	10				
金属笠木30×40	10				
S妻壁用スパーサー	10				
S壁捨板	5				
S面戸20×20×2000	5				
S面戸30×30×2000	50				
S面戸30×40×2000	10				
専用ビスJP25ミリ(500入)	500				
ステンレスビス25ミリ(約200入)	200				
軒先ネジ75S	500				
専用ビスJP38ミリ(500入) <sup>(注1)</sup>	500				
ステンレスビス38ミリ(約200入) <sup>(注1)</sup>	200				
専用ビスJP50ミリ(500入)	500				
リッチペンツ182W	6				
S雪止金具	30				
平板400×2000	5				
タッチアップキット	1				
マグネットソケット	10				

(注1) 着色平板スレート瓦等での重ね葺きの場合は六角ビス38を使用

## 材料積算方法

### 丸棟仕様

分類	品名	注意点	積算方法(単位:面積㎡×長さm)
本体	かわらS本体かわら	1山瓦は使用不可	切妻:屋根面積×2.53 寄棟:屋根面積×2.64
	Sアンダーマット	本体かわら1枚に1本	
板金部材	軒先スターター	軒先部(何れか選択)	軒長さ÷1.95
	S軒先水切り4.5寸		
	S軒先水切り8寸		
	S軒先カバー	軒先部(重ね葺き用)	軒長さ÷1.95
	S丸棟ケラバスペーサー45	ケラバ部	ケラバ長さ÷1.9
	Sケラバ捨板140		
	丸棟ケラバ樋	ケラバ部	ケラバ長さ÷1.9+0.5
	棟巴	ケラバ先端(丸板を使用しない場合)	屋根形状より算出
	丸板(小)	ケラバ先端(棟巴を使用しない場合)	屋根形状より算出
	丸棟(大)	棟部	棟長さ÷0.41
	S丸棟(大)スペーサー		棟長さ÷1.9
	丸棟鬼	棟端部(丸板を使用しない場合)	屋根形状より算出
	丸板(大)	棟端部(丸棟鬼を使用しない場合)	屋根形状より算出
	丸棟(小)	ケラバ部・降り棟部	$(ケラバ長さ-0.37)÷0.37+$ $(降り棟長さ-丸棟降りコナ×0.37)÷0.37$
	S丸棟(小)スペーサー	降り棟部	降り棟長さ÷1.9
	丸棟降りコーナー	降り棟先端	屋根形状より算出
	降り棟カバー	棟部・降り棟部	$(棟長さ+降り棟長さ)÷0.95$
	谷樋	谷部(何れかを選択)	谷長さ÷1.9
	SIIW谷樋		
	S谷カバー	谷部	谷長さ÷0.95
	雨押さえB	妻壁部・桁壁部(何れかを選択)	$(妻壁長さ+桁壁長さ)÷1.9$
	雨押さえ80		
	金属笠木30×40	桁壁部	桁壁長さ÷2.0
S妻壁用スペーサー	妻壁部	妻壁長さ÷1.9	
S壁捨板			
面戸部材	S面戸20×20×2000	谷部	谷長さ÷1.0
	S面戸30×30×2000	棟部・桁壁部	棟長さ÷1.0+桁壁長さ÷2.0
	S面戸30×40×2000	降り棟部	降り棟長さ÷1.0
固定部材	専用ビスJP25ミリ(500入)	本体かわら・部材の固定(何れかを選択)	屋根面積×23
	ステンレスビス25ミリ(約200入)		
	軒先ネジ75S	軒先部(軒先水切を使用する場合)	軒長さ÷0.36
	専用ビスJP38ミリ(500入)(注1)	本体かわらのおよび壁際部	屋根面積×23(妻壁長さ+桁壁長さ)÷0.5
	ステンレスビス38ミリ(約200入)(注1)		
	専用ビスJP50ミリ(500入)	軒先部(軒先スターターを使用する場合)	軒長さ÷0.36
付属部材・他	リッチベント182W	棟換気部	棟換気のある棟長さ÷1.82
	S雪止金具	落雪防止部	取付長さ÷0.36
	平板400×200	標準部材で納まらない特殊部位	屋根形状より算出
	タッチアップキット	接続部の仕上げ他	1棟に1~2セット
	マグネットソケット	ビス用工具	必要数

(注1) 着色平板スレート瓦等での重ね葺きの場合は六角ビス38を使用

## 材料積算方法

### 丸棟仕様

●お施主様名

●ご住所

●TEL

#### ●屋根面積 各部寸法

	屋根勾配	屋根面積	軒長さ	ケラバ長さ	棟長さ	降り棟長さ	桁壁長さ	妻壁長さ	谷長さ
2F									
1F									
合計									

#### ●部材数量

品名	梱包数	部材数量			
		1F	2F	予備	合計
かわらS本体瓦	300				
Sアンダーマット	30				
軒先スターター	10				
S軒先水切り4.5寸	10				
S軒先水切り8寸	10				
S軒先カバー	5				
S丸棟ケラバスペーサー45	10				
Sケラバ捨板140	10				
丸棟ケラバ樋	10				
棟巴	6				
丸板(小)	25				
丸棟(大)	20				
S丸棟(大)スペーサー	5				
丸棟鬼	1				
丸板(大)	25				
丸棟(小)	20				
S丸棟(小)スペーサー	5				
丸棟降りコーナー	10				
降り棟カバー	10				
谷樋	5				
SIIW谷樋	5				
S谷カバー	10				
雨押さえB	10				
雨押さえ80	10				
金属笠木30×40	10				
S妻壁用スペーサー	10				
S壁捨板	5				
S面戸20×20×2000	5				
S面戸30×30×2000	50				
S面戸30×40×2000	10				
専用ビスJP25ミリ(500入)	500				
六角ビス25ミリ(約200入)	200				
軒先ネジ75S	50				
専用ビスJP38ミリ(500入)(注1)	500				
六角ビス38ミリ(約200入)(注1)	200				
専用ビスJP50ミリ(500入)	500				
リッチベント182W	6				
S雪止金具	30				
平板400×200	5				
タッチアップキット	1				
マグネットソケット	10				

(注1) 着色平板スレート瓦等での重ね葺きの場合は六角ビス38を使用